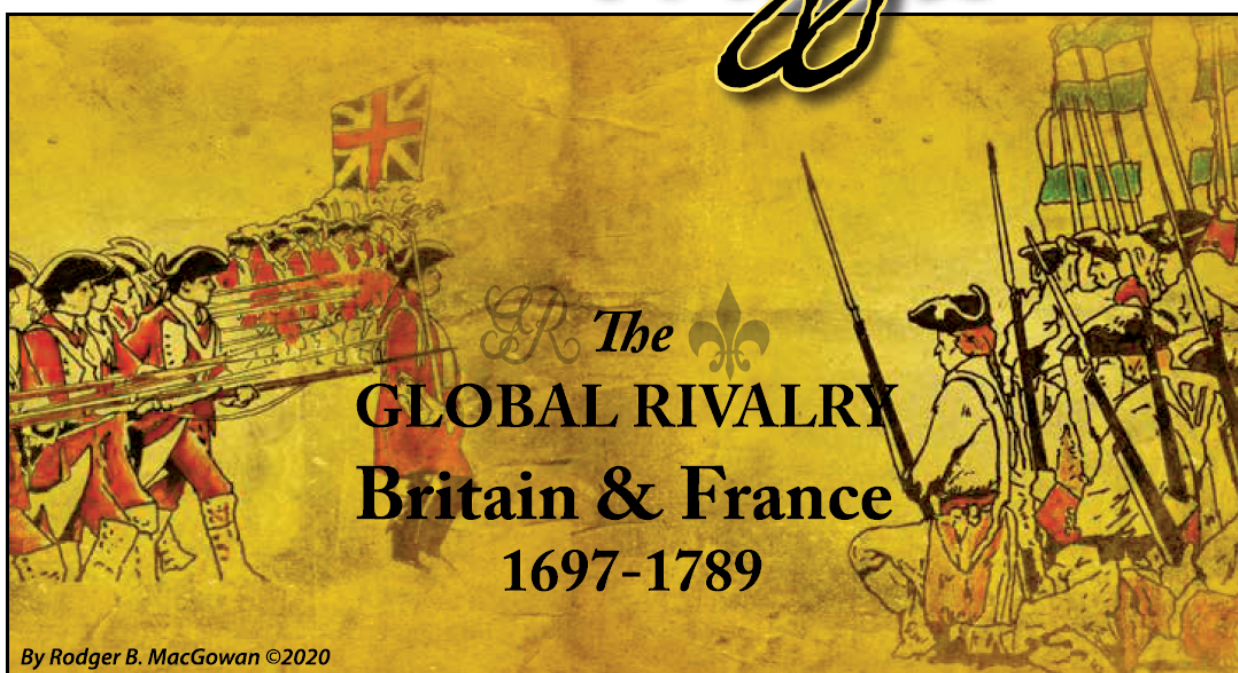


Imperial Struggle



PLAYBOOK

TABLE OF CONTENTS 目次

セットアップ.....	2	歴史的背景	14
拡張されたプレイの例	3	デザイナーの注釈	27
更なる例	12	推奨図書&ラドグラフィー	28
CDG プレイヤーについてのガイド	13	Credits	28

GMT Games, LLC • P.O. Box 1308, Hanford, CA 93232-1308 • www.GMTGames.com

日本語解説書

これはゲームの「リビング・ルール」です。オリジナル・ルールへの更新と説明を含みます。
読み易さのため、更新と説明は青文字で示されます。

Setup セットアップ



1. ボードを配置します。
2. 継承の時代イベント・カードを抜きだすことで、イベント・デッキを準備します。これらをシャッフルし、イベント・デッキ・ディスプレイ上の引きパイル・エリア上に置きます (A)。帝国と革命の時代イベント・カードを脇に置きます。これらは、後に使用されます。
3. 投資タイルをかき混ぜ、それらを投資タイル・ディスプレイの投資タイル・スタック・セクション内に表を伏せてスタックさせます (B)。
4. 各プレイヤーは、自身の基本戦争タイルを取り、それらの表を伏せてかき混ぜます。それらを自身のプレイヤー・マット上の適切なボックス内に置きます (C1、C2)。次いで、各プレイヤーは、スペイン継承戦争についてのボーナス戦争タイルを取り、それらをかき混ぜ、それらのプレイヤー・マットのボーナス戦争タイル・ボックス内に表を伏せて置きます。
5. 下記で指定されるごとく、マップ上に旗印と戦隊を置きます。(マップ自体も、開始時の旗印を置く場所を示します。) 各プレイヤーについて残りの戦隊を、それぞれのプレイヤー・マットの未建造戦隊ボックス内に置きます。
6. メイン・ボードの隣に、スペイン継承戦争ディスプレイを置きます (D)。次いで、各プレイヤーは4枚の基本戦争タイルを引き、各戦域内に1つを順番に表を伏せて無作為に置きます。プレイヤー諸氏は、配置後に自身の戦争タイルを調べることができます。
7. 総合記録欄上で、ゲーム・ターン・マーカーをターン1に、VP マーカーを15 スペースに置きます (E)。
8. 6枚の世界的需要タイルをかき混ぜ、それらの表を伏せて世界的需要表の近くに置きます (F)。
9. 8枚の褒賞タイルをかき混ぜ、各領域の褒賞ボックス内に表を伏せて置きます。
10. 紛争マーカーと消費済マーカーを、使用に備えてボード近くに置きます。
11. 優位性タイルを表に向けて、マップ上のそのスペース内に置きます (小麦とアルゴンキン族の襲撃を除きます)。
12. 主導権スペース内に主導権マーカーを置きます (G) フランス面を上に向けます。

初期旗印&プレイヤー・マーカーの配置



イギリス

・ヨーロッパ

オーストリア [Austria] (同盟2)、オランダ共和国 [Dutch Republic] (3コスト榮譽スペース)、ドイツ領邦 [German States] (同盟3) 内に旗印を置く。

・北アメリカ

マサチューセッツ湾 [Massachusetts Bay]、北部植民地 [Northern Colonies]、ハドソン渓谷 [Hudson Valley]、チェサピーク [Chesapeake] 内に旗印を置く。

・カリブ海

カロライナ [Carolinas]、ジョージア [Georgia]、ジャマイカ [Jamaica]、バルバドス [Barbados]、セント・ルシア [St. Lucia] 内に旗印を置く。

・インド

マドラス [Madras]、カンチープラム [Kanchipuram]、カルカッタ [Calcutta]、メディニプル [Midnapore] 内に旗印を置く。

・海軍ボックス：2戦隊

・総合記録欄

負債限度：6、負債：0、条約ポイント：0

・優位性ボックス (プレイマット)

小麦



フランス：

・ヨーロッパ

スペイン [Spain] (同盟3)、オーストリア [Austria] (3コスト榮譽スペース、右下)、バイエルン [Bavaria]、アイルランド [Ireland] (同盟2) 内に旗印を置く。

・北アメリカ

ケベック&モントリオール [Quebec & Montreal]、アカディア [Acadia]、カタラク [Catarauqui]、アルゴンキン [Algonquin] 内に旗印を置く。

・カリブ海

ルイジアナ [Louisiana]、サン・ドマング [St. Domingue]、グアドループ [Guadeloupe]、ポール・ド・ペ [Port de Paix]、マルティニーク [Martinique] 内に旗印を置く。

・インド

チャンダナガー [Chandernagore]、ボンディチェリ [Pondicherry]、カーライカール [Karaikal]、パラシ [Plasse] 内に旗印を置く。

・スペイン継承戦争 (中央ヨーロッパ戦域)：

1 ボーナス戦争タイル

・海軍ボックス：1戦隊

・総合記録欄

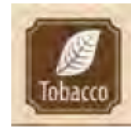
負債限度：6、負債：0、条約ポイント：0

・優位性ボックス (プレイマット)

アルゴンキン族の襲撃

Extended Example of Play 拡張されたプレイの例

ラジ [Raj] とイライザ [Eliza] は、*Imperial Struggle* をプレイしており、ラジはフランス・プレイヤー（青）、イライザはイギリス・プレイヤー（赤）です。セットアップのステップ6中、ラジとイライザは下の戦争ディスプレイ上に表示されたごとく、スペイン継承戦争についての戦争タイルを引きます。（この例では、これらの全タイルは解明のため明らかにされていますが、実際のゲームでは各陣営が自身のタイルのみを見ることが出来ます。）同様に、フランスがヨーロッパ内に1枚のボーナス戦争タイルを持って開始することに注意してください。この場合は、『王の家 [Maison du Roi]』です。



この世界的需要の引きは、ターンのカリブ海の経済価値を劇的に増加させます。

War of the Spanish Succession		
1. Central Europe		
War Tiles: 1 (Blue), 0 (Red)	War Tiles: 1 (Blue), 1 (Red)	Map: Europe
Margin of Victory: 1-2, 3-4, 5+	Winner Gets: 2 VP, 1 VP + 1 CF, 1 VP + 2 CF	Bonus Strength: Austria, Prussia, Denmark-Norway, Dutch Republic, German States, Savoy
Available Territories: Catalonia, San Agustin, Asiento, Mexico, Hudson Bay, Acadia		
2. Spain		
War Tiles: 1 (Blue), 1 (Red)	War Tiles: 1 (Blue), 1 (Red)	Map: Europe
Margin of Victory: 1, 3, 4+	Winner Gets: 1 VP, 1 VP + 1 CF, 1 VP + 2 CF	Bonus Strength: Governance, Badminton, Sports, Squads
Available Territories: Catalonia, San Agustin, Asiento, Mexico		
3. Queen Anne's War		
War Tiles: 2 (Blue), 0 (Red)	War Tiles: 0 (Blue), 0 (Red)	Map: North America
Margin of Victory: 1-2, 3, 4+	Winner Gets: 1 VP, 1 VP + 1 CF, 1 VP + 1 CF + 1 N. Amer. Market + 1 CF	Bonus Strength: Conflict Markers, Fets, Squads
Available Territories: Hudson Bay, Acadia		
4. Jacobite Rebellion		
War Tiles: 1 (Blue), 1 (Red)	War Tiles: 1 (Blue), 1 (Red)	Map: Europe
Margin of Victory: 1-2, 3-4, 5+	Winner Gets: 1 VP, 2 VP, 4 VP	Bonus Strength: Style, Dutch Republic, Ireland, Scotland, Conflict Markers
Special: FR places 1 Jacobite Victory marker on Turn Track for winning with 2+		

保のために2の旗印と／又は戦隊の差異が要求されるため、捕まえるのはやや困難です。ここでプレイヤー諸氏は世界的需要へ転じ、3枚のタイル：魚、タバコ、砂糖を引きます。あっけなく状況が変わり、0 VP 褒賞を持つカリブ海は、このターンは平穏になりそうでしたが、世界的需要における両方の商品を持ち、表上で追加の5 VP の状態に置くため、カリブ海はいまや極めて大きな関心と呼ぶ主要な場所になります。イライザには、魚の引きでも不運です。なぜならば、これは北アメリカの投資に更なる価値を加えるからです。彼女はアン女王戦争の勃発前に、大きく切迫したその軍事状況の解決に力を注ぎます。

イン・プレイで消費されたマーカーがないため、リセット・フェイズは飛ばし、ターンの投資タイルを明らかにします。合計9枚のタイルを取り、それらの表を向けて使用可能タイル・エリア内に置きます。以下のように終わります。：




ラジはこれらのタイルでかなり幸運ですが、ジャコバイトはいくらか助けが必要かもしれません。イライザはやや満足せず、特にゲームの極初期に北アメリカの地を失うことが予想されます。

イライザとラジは、これで最初のターンを開始するための準備ができました。ターン1に発生しない、デッキと負債限度フェイズを飛ばします。褒賞フェイズについては、各褒賞ボックス内で上部の褒賞タイルを表に返します。（下部のそれは、ターン2の褒賞フェイズに表に返されます。）ターンの領域褒賞は、以下のとおりです。：

- ・ヨーロッパ：1 VP (+1 条約ポイント)
- ・北アメリカ：2 VP
- ・インド：1 VP (+1 条約ポイント)
- ・カリブ海：0 VP (+1 条約ポイント)

イライザは、すでに自身の軍事的準備についてくよくよしている北アメリカが、このターン最高の VP を持つことを知って歯がしりします。（彼女は、ラジの最高の基本戦争タイルもそこにあることを知りません！）それでも、2 VP のタイルは、確



両プレイヤーは、直ちにこの投資タイル引きで、いくつかの考慮事項に留意します。3枚のみのタイルがイベント・シンボルを持つため、このターンに3つのイベントのみがプレイ可能で、プレイするために2つを獲得するプレイヤーとは大きな差があります。二番目に、大軍事アクションを持つタイルは1枚のみなので、大部分の軍事アクションは負債を必要とします（いくつかある小軍事アクションは、2軍事アクション・ポイント【】のみを認めます）。敵戦隊の置き換えには大アクション又はイベントが要求されるため、やはり1人のプレイヤーのみが積極的な海軍アクションを実施することになります。（紛争マーカーが存在しない相手側の旗印と戦隊は、小アクションで取り去ることができず、紛争マーカーは海軍スペースを占められないことを忘れないでください。）最初に戦隊を配備することは、高い見返りがあり得ます。反面のの広底は、外交アクション・ポイント（）の価値があります。世界中と同盟を行う機会に満ちています。

ここで、プレイヤー諸氏は、自身のイベント・カードを引きます。ラジは、#3「熱帯病 [TROPICAL DISEASES]」、#12「軍事支出超過 [MILITARY SPENDING OVERRUNS]」、#8「税制改革 [TAX REFORM]」を引きます。イライザは、#6「アメリカ先住民同盟 [NATIVE AMERICAN ALLIANCES]」、#1「カーナティック戦争 [CARNATIC WAR]」、#15「利子払い [INTEREST PAYMENTS]」を引きます。両プレイヤーは、投資記録欄上のイベント機会が不足するため、その全てのイベントをプレイできる方法がないことを知り、ボード上に位置する自身の閣僚カードの選択に主な焦点を向けます。

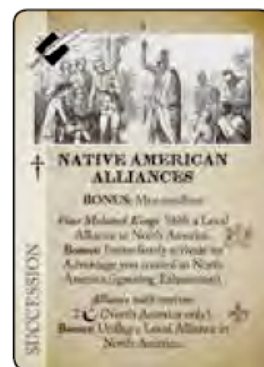
ラジは自身のカードと投資タイルを見て、このターンはヨーロッパに焦点を当てることに決めます。外交アクションの価値は、自身の軍事カード#M-1「枢機卿 [THE CARDINAL MINISTERS]」と良く適合します。



統治キーワードは、このターンは彼の役に立ちません。なぜならば、そのボーナス効果が統治から誘発されるイベントを持たないからです、おそらく彼は次のターンにそれを引き、このカードが提供する追加の外交力が価値を持ちます。しかも、彼はヨーロッパで強力な外交活動を行うことを計画しているため、自身の二番目の閣僚カードとして#M-3「太陽王の宮廷 [COURT OF THE SUN KING]」を選択します。ヨーロッパで勝ち取る褒賞のボーナス VP の提供に加えて、これは彼の「熱帯病」イベントの効果を増加させる学術キーワードを持ち、イライザが（世界的需要の状況が与えられている）カリブ海で積極的に動くことを選択していたら、不快な驚きになります。彼は自身の閣僚カードを、表を伏せてプレイヤー・マット上に置きます。なぜならば、閣僚カードはそのいずれかの能力が使用されるまで明らかにされないからです。



イライザは、特にボーナス効果を誘発できる、極めて強力な効果を持つ「アメリカ先住民同盟」を見て狂喜します。ただし、このイベント・カードをプレイするためには、イベント・シンボルを持つ投資タイルを選択しなければならぬのみならず、大外交アクションも持たなければなりません（カードの左上端の外交アクション・アイコンによって指定されるごとく）。幸いにも、イベント・シンボルを持つ2枚の投資タイルが大外交アクションを持つため、それらの1枚を獲得する限り、彼女は「アメリカ先住民同盟」をプレイできます。



彼女はボーナス効果を望み、最初の閣僚カードとして#M-7「東インド会社 [EAST INDIA COMPANY]」を取ることに決めます。なぜならば、重商主義のキーワードを持つからです。これは、経済優位性についての褒賞も彼女に与え、長期間に亘ってペイできます。彼女の二番目の閣僚カードについては、#M-10「エドモンド・ハレー [EDMOND HALLEY]」を選択します。小軍事アクションの過多は、彼女が安い戦隊を建造し、北アメリカに英国海軍の存在を確立することを保証し、カリブ海は彼女がこれらの領域と商品褒賞を捕獲するために必要となる市場保護の手助けをします。自身の全てのイベント・カードをプレイしないため、1枚のイベント・カードを条約ポイントに交換できるハレーの能力は有効に思えます。



閣僚カードが選択されて、ラジは（主導権プレイヤーとして）ここで誰が先行するかを決めます。先行は、彼に投資記録欄上の唯一の大軍事アクションを選択することを認め、又は彼が2

枚のイベントを獲得できることを保証します。理想的には、彼はターンの後半でイライザに「熱帯病」を飛ばすべきですが、使用可能なイベント・シンボルが少ないため、これらはそう長く保持できないでしょう。もちろん、後行は得点フェイズの前にボード上で最終的なワードを彼に与えることになります。それにもかかわらず、ラジは先行することに決め、その最初のアクション・ラウンドのためにこの投資タイルを選択します。



最初に、ラジはタイル上のイベント・シンボルによって認められたごとく、イベントをプレイするか否かを決めなければなりません。彼は「熱帯病」を選択し、セント・ルシア [St. Lucia] からイギリスの旗印とマルティニーク [Martinique] からフランスの旗印を取り去ります。次いで、追加のイギリス旗印を取り去るボーナス効果が彼に認められ、彼はジョージア [Georgia] 内の旗印も取り去ります。彼はその学術キーワードを使用しているため、自身の「太陽王の宮廷」閣僚カードを表に返します。

ここで、ラジは投資タイル上に列記されたアクションである 3 の価値を持つ大外交アクションと、2 の価値を持つ小軍事アクションを行うことができます。「枢機卿」の効果を証明すべく、彼はフランス内の 3 コスト榮譽スペース内にフランスの旗印を置くために 3 を消費します。彼は追加の 2



のために追加の2負債を取り、他のフランス旗印をサヴォイ内に置くことに決めます。彼は「地中海の陰謀」[*Mediterranean Intrigue*] 優位性に連結した両スペースを支配するため、そのタイルを取り、自身のプレイヤー・マット上の優位性セクション内にそれを置きます。イライザが「地中海の陰謀」へと連結するどちらかのスペースの支配を取り去らないという条件で、彼は次のアクション・ラウンドに、紛争マーカーをスペイン、オーストリア、サルディニア内に置くためにそれを使用できます。



ここで、ラジは自身の小軍事アクションを行い、その2と共にルイブール [Louisbourg] に要塞を造るために追加の1負債を消費します。これは高価で、少ない使用可能負債を持つプレイヤーを罰する危険なイベントのリスクに彼を置きますが、ルイブールは全3つの魚市場へのアクセスを提供するため（しかも、魚は世界的需要）、このターンは特に価値が高いと感じています。これで最初のフランスのアクション・ラウンドが完了します。

イライザは、この投資タイルを取ることに決めます。:



これは軍事向上シンボルを持ち、このターンにそれを行う唯一のそれです！ただし、最初の最初に行うのは、彼女が手札から「アメリカ先住民同盟」をプレイすることです。



彼女は、重商主義キーワードの優位性を取るため、自身の「東インド会社」カードを表に返します。基本効果「4人のモホーク族酋長」[*Four Mohawk Kings*] は、彼女に北アメリカ内の局地同盟をシフトさせます。彼女は、フランスとのアルゴンキン同盟から旗印を取り去りますが、それはいかなる方法によっても彼女がボーナス効果を使用しないままにします（彼女は小麦を使用するため、このラウンドに持たないが必要だからです）。代わりに、彼女はイロコイ同盟をシフトさせ、そこにイギリスの旗印を置いて「イロコイ族の襲撃」[*Oroquois Raids*] 優位

性タイルを取ります。ここで、彼女は北アメリカで優位性を支配し、彼女は直ちにそれをイベントのボーナス効果として活性化させ（彼女が今この優位性を獲得したかどうかは問題ではなく、イベント・カード上の「直ちに」[*immediately*]の言葉は、優位性が獲得された同じアクション・ラウンドに活性化できないルールに優先します）、紛争マーカーをオールバニ [Albany] 内に置きます（未来の獲得のためそのコストを減少させるべく）。イベントが彼女に消費の無視を指定するため、彼女は「イロコイ族の襲撃」上に消費済マーカーを置きません。



ここで、イライザは、投資タイル上の軍事向上を使用します。彼女は「アン女王戦争」戦域内のタイルの置き換えを選択し、はにかみを隠して自身の「+2」基本戦争タイルの1枚を引き、それをアン女王の戦域内に置きます。彼女はゲームから現在の「0」戦力を取り去ります。

トレードオフで、イライザはこれらの特別な能力にアクセスするため、大外交アクションのため比較的低いアクション・ポイント-2のみを受け取ります。彼女はサルディニア内で外交の序曲を行うことに決め、そこにイギリスの旗印を置きます。その小軍事アクションについて、彼女は海軍ボックスからバレーアレス [Balearic] 海軍スペースへ自身の戦隊の1つを配備するため1を消費します。不幸にも、小アクションで1購入のみが行われ得るため、他のが枯渇しています。次いで、彼女は「カーナティック戦争」を捨て札するため、ハレーの二番目の能力を使用することに決め、自身の条約ポイント・マーカーを総合記録欄上の「1」スペースまで移し、ハレーのカードの下半分上に消費済マーカーを置きます。これで、最初のイギリスのアクション・ラウンドが完了です。

ラジは、いまやジレンマに直面しています。残されている彼のイベントは、現在の状況で強力ではありません（「軍事支出超過」は、イライザがすでに複数の軍事アセット・戦隊の配備やボーナス戦争タイルをイン・プレイに持っていたら、大きなプレイになったことでしょうが、彼女はまだ持っていません。「税制改革」は、彼が最初のアクション・ラウンドで取った負債の回復へ導きますが、彼の閣僚カードが表示する財政キーワードが示すようなボーナス効果を得ることはありません。とはいえ、イベント・シンボルを持つ、残っている唯一のタイルを取ることで、彼はイライザがイベント・特に彼女よりも少ない使用可能負債を持つことで彼が罰則を受けるそれをプレイする機会を妨げることができます。その代わりに、彼は到来する戦争で自身の立場を強め、イライザが単一のアクション・ラウンドで彼女の戦隊の全てを配備する機会を妨げるため、大軍事アクションを持つ単一のタイルを取ることができました。

彼は、イライザが彼女よりも少ない使用可能負債を持つことで彼が罰則を受けるイベントを保持していない可能性に賭けることに決め、この投資タイルを選択します。:



ラジは、海軍ボックスからヨーロッパ内の海軍スペースであるビスケー [Biscay] へ彼の唯一の戦隊を配備するため、1 を消費します。これは、到来するスペイン継承戦争のスペイン戦域内で彼を手助けすることになります。そこは栄誉スペースでもあり、このターンに彼がヨーロッパの褒賞と栄誉の両方を獲得させる手助けをします。残っている3 と四番目の負債で、彼は二番目の戦隊を建造することに決め、それを海軍ボックス内に置きます。

経済小アクションからの2経済アクション・ポイント()で、ラジはジョージ・バンク [George Bank]—彼にハリファックス [Halifax] へのアクセスも与える魚市場—に旗印を置くことで二番目のフランス・ラウンドを完了させることに決めます。イライザがこれに反応しないままであると、このエリア内に二番目のフランス要塞の建設を認めることになります。いまや、魚競争は1の同点です（イライザはマサチューセッツ湾 [Massachusetts Bay] を、ラジはジョージ・バンクを支配）。

イライザは、眉を顰めます。彼女はイベント・シンボルを持つ最後に残っているタイルを取り、「支払利子 [INTEREST PAYMENTS]」をプレイするために使用しますが、彼女は負債を持たないため、そのボーナスは彼女に何ももたらしません！その代わりに、彼女はこの投資タイルを取り、カリブ海で経済的パワー・プレイを開始することに決めます。:



彼女はジョージア [Georgia] と「熱帯病」のために失ったセント・ルシア [St. Lucia] 内に旗印を置き換えるために4 を消費します。砂糖市場に関係する優位性を増加させるため、サンティアゴ [Santiago] に旗印を置くべく1条約ポイントを消費します。最後に、彼女は北アメリカ内のオールバニ [Albany] に旗印を置くため、追加の2負債を取ることに決めます。オールバニを奪取するための基本コストは、紛争マーカーを含むために1ですが、彼女は領域を変更しているため追加の1を消費しなければなりません（二番目の領域内での外交と経済の

購入は、追加1アクション・ポイントがかかります）。オールバニ内の紛争マーカーは取り去られ（スペースの支配が変更されるときは常に）、イライザはそこにイギリスの旗印を置きます。

小軍事アクションで、彼女はアンティル諸島 [Antilles Channel] に戦隊を配備します。これは、ラジがセント・ルシアから旗印を取り去るコストを増加させ、彼女がバルバドス内に閉じ込められることを回避する手助けとなります。これには1がかかり、二番目の が消費されます。小アクションなので、単一の購入のためのみに使用できます。

ラジは、これに徹底的に不満ですが、イライザに最後のイベントを残しておくのがより安全と感じました（彼女は前のアクション・ラウンドでこれを取らなかったため、いまや彼は彼女が負債脅威カードを所持しないと確信しますが、ご存じのとおり、彼は間違っています）。彼は、ヨーロッパ内にける外交攻勢で反撃することに決め、この投資タイルを選択しています。:



彼は「枢機卿」を明らかにして、イライザをがっかりさせるため、3 の最大を獲得することを指摘します。彼は、カード上に消費済マーカーを置きます。



ラジは、このアクション・ラウンドになると7 を消費できます。最初に、彼は「地中海の陰謀」優位性タイルを活性化させてその上に消費済マーカーを置き、オーストリア内のイギリス旗印下の同盟スペース内に紛争マーカーを置きます。次に、彼はドイツ領邦内の3コスト・スペースからイギリスの旗印を取り去るため3 を、そこに自身の旗印を置くためさらに3 を消費します。これは、彼にプレイヤー・マットの優位性ボックス内に置く、中央ヨーロッパ紛争優位性へのアクセスを与えます。（獲得した直後なので、彼はこのアクション・ラウンドでこれを使用できません。）次いで、彼はオーストリア内の同盟スペースからイギリスの旗印を取り去るため最後の を消費し、これは紛争マーカー（やはり取り去られます）のために1 のみがかかります。最後に、彼は北アメリカでイライザを遅滞させることを期待して、オールバニ内に紛争マーカーを置くために「アルゴンキン族の襲撃」優位性を消費します。

ラジは物欲しげにハリファックス [Halifax] を見ますが、さらなる負債を取ることは望みません。代わりに、彼は2 でボーナス戦争タイルを購入し、「ド・ヴィラール [de Villars] : +3」の当たりを引きます。彼はこれをジャコバイト革命地域内に置きます。これで、ターン1の三番目のフランス・アクション・ラウンドが完了です。

イライザは、優れた財政管理の重要性についてフランスに教えるため、十分長く待つことに決めます。この投資タイルを取ることで、彼女は「利子払い」をやめます。



ラジは、イライザの3に対して2使用可能負債を持つため、ボーナス効果が誘発されます。ラジの負債限度は、直ちに1だけ減少します（開始した6から5へ）。彼はその負債限度ではないので、イライザはいかなるVPも獲得しません。ただし、いまやラジは、使用可能な1負債のみを持ちます。ボーナス効果に感謝して、イライザは自身の負債を2だけ減少させ（1へ）、プレイで使用可能な5負債を彼女に与えます。

タイトルによって認められた大経済アクションで、イライザは西ベンガル絹市場に旗印を置くことで、長期間の投資を行います。綿が世界的需要ではない一方、このスペースの絹の優位性は、このターンのインドにおける経済的値引きに加えて、「東イ

ンド会社 [EAST INDIA COMPANY] から1VPとインドの褒賞を獲得し、控えめですが何もないわけではありません。ここで更なる負債を取る代わりに、彼女は三番目の🌀を未消費にします。



アクション・ラウンド3の終了時の状況。

ここで、外交小アクションについては、イライザはヨーロッパにおける自身の立場を繕うことだけが必要です。フランスは、ヨーロッパ内が 8-3 で、ヨーロッパの褒賞上に表示される「太陽王の宮廷 [COURT OF THE SUN KING]」ボーナス VP を持ちます (ラジがこれを勝ち取ると 2 VP と 1 条約ポイントの価値を持ちます)。加えて、ラジは彼女の 2 に対して 3 栄誉スペースを支配するため、ターンの終了を通してこの状況を維持すれば追加 2 VP を得点することになります (前頁の下の方を参照してください)。

1 負債 (2 まで) を負っているため、彼女はオーストリア内のカラの栄誉スペース上に 3 を消費することに決めます。これは栄誉スペースのカウントと組み合わせられ、ヨーロッパ内で更なる反フランス政策の利権を手助けする、「シレージエン交渉 [Silesia Negotiations]」優位性へのアクセスを彼女に認めることとなります。これでアクション・ラウンド 3 が完了し、各プレイヤーはスペイン継承戦争の前に更に 1 つのみのアクション・ラウンドを獲得します。

ラジは、残りの 3 枚のタイルを調査します。カリブ海におけるイライザの商品独占に対抗できる経済大アクションが彼を魅了しますが、彼女は最終アクション・ラウンドを持つため、それに対応することが可能です。ただし、記録欄上には、1 枚のみの外交大アクションがあります。このターンは、商品貿易における敗北を認めます。ラジは、アンジュー公爵がスペインとフランスの両方の王位継承権を主張し、無敵のヨーロッパ連合を結成することを目指すために、そのタイルを選択します。



最初に、ラジは自身の「中央ヨーロッパ紛争」優位性を活性化させ、イギリス旗印下のサルディニアに紛争マーカーを置きます。イライザは、うめき声を上げます。投資記録欄上に軍事アクションが残っておらず、彼女は戦争が勃発する前にこれを取り去ることができないからです。

次に、タイルの小軍事アクションから 2 を使用して、ラジはボーナス戦争タイルを購入します (投資タイル上のアクションは、そのイベント・プレイが最初の来なければならぬことを除き、いかなる順番でも行うことができることを思い出してください)。彼は自身の最終タイル戦力が弱体戦域を強化するための追加同盟の交渉前に知りたいため (又は彼がすでに十分強力な場所で決定的な勝利を収めるため)、これを最初に行います。不幸にも、それは「ダルトニヤン [d'Artanian : +1]」一有利ですが、プール内の最強ではありません。彼は、それを中央ヨーロッパに割当てます。

その 4 で、彼はデンマーク・ノルウェーとスウェーデンに旗印を置くことに決めます (それは彼を栄誉ボーナスのリードに戻します)。スウェーデンの同盟は、到来する戦争に有用ではありませんが、ラジはおそらく自信過剰で、すでに十分強力な刃先を持つと感じています。これで、最初のターンの、フランスの最終アクションが完了します。

2 枚の同じタイルが残されているため、イライザに選択肢はありません。彼女はそれらの 1 枚を取ります。



経済大アクションからの 4 で、イライザは魚貿易を独占することに決めます。彼女はジョージ・バンクから旗印を取り去るため 3 (そのコストは、ルイブール [Louisbourg] の要塞によって保護されているため 1 だけ増加しています)、次いでそれ自体に旗印を置くために 2 を消費し、その過程で 1 負債を受けます (いまや彼女は 3 を持ちます)。彼女はオーストリア内の 2 コスト同盟スペース (ラジが以前に旗印を取り去っている) に外交小アクションからの 2 を消費します。

アクション・ラウンドは、ここで終了です。条約ポイント減少フェイズは、どちらのプレイヤーも 4 条約ポイントを超えて持たないため効果なしです。どちらのプレイヤーも解決するための「ターンの終了」カード能力がないため、同様にそのフェイズが飛ばされ、得点フェイズの開始に進みます。

北アメリカが最初に得点されます。イライザは、ラジの 5 に対して 7 つの旗印を持ちますが、「アルゴンキン族の襲撃」のおかげで、オーストリア内のイギリスの旗印はカウントしません。2 VP の褒賞タイルは、それを保証するために 2 旗印差が要求され、どちらのプレイヤーも褒賞を勝ち取らず、表面を向けて脇に置かれます (各領域が再び 2 枚の無作為タイルを受け取る時である、早くもターン 3 になるまで再び現れません)。

フランスはヨーロッパの褒賞を勝ち取り、1 VP にプラスして「太陽王の宮廷」(VP=17) を得点し、1 条約ポイントを獲得します (1)。これらは、4 つのフランス旗印下の栄誉スペース (スウェーデン、オーストリア内の 1、スペイン内の 1、ビスケー海軍スペース) に対してイギリスの 3 (オランダ共和国、バレーアレス海軍スペース、オーストリア内の 1 スペース) より多くの栄誉スペースを支配することで 2 VP も得点します。VP マーカーは、19 へ移されます。

カリブ海は、容易にイギリスに行きます (7 つの旗印と戦隊に対してフランスの 4 つ)。いかなる VP の価値もありますが、イギリスは 1 条約ポイントを獲得します (1)。

同様にインドはイギリスに行き (フランスの 4 つの旗印に対して 5 つを持ちます)、1 VP (VP=18) を得点し、1 条約ポイントを認めます (いまや 2 を持ちます)。

次に、世界的需要が得点されます。イギリスは、2 魚 (FR : 0)、2 砂糖 (FR : 1)、1 タバコ (FR : 0) で全 3 つの褒賞を総なめにします。これは 7 VP を生み出しますが、イギリスの負債が 2 だけ増加します (VP=11、BR 負債=5)。イライザは、絹の優位性について「東インド会社」から 1 VP も獲得し、合計 8 VP です (!)。VP 合計は、10 になります。

勝利チェック・フェイズは、VP 合計が 0 又は 30 ではないため、何の結果も生み出しません。イギリスはヨーロッパと北アメリカの褒賞を勝ち取ることができていたら、得点フェイズ中に自動的勝利で勝っていたでしょう! (自動的勝利条件の 1 つは、単一の平時ターンに全 4 つの領域と世界的需要の全ての商品を勝ち取ることです。ただし、ゲームが継続するため、ここでスペイン継承戦争を聞かなければなりません)。



プレイヤー諸氏は、自身の戦争タイトルを明らかにします。

War of the Spanish Succession			
1. Central Europe	Map: Europe	2. Spain	Map: Europe
 Bonus Strength: Austria, Bavaria, Denmark-Norway, Dutch Republic, German States, Prussia Margin of Victory: 1-2, 3-4, 5+ Winner Gets: 2 VP, 1 VP + 1 CP, 3 VP + 1 CP Loser Gets: 1 TRP, 2 TRP, 3 TRP Available Territories: Gibraltar, San Agustin, Austria, Mexico, Hudson Bay, Canada		 Bonus Strength: Governorate, Sicily, Spain, Sardinia Margin of Victory: 1, 2-3, 4+ Winner Gets: 1 VP, 1 VP + 1 CP, 1 VP + 2 CP Loser Gets: 1 TRP, 2 TRP, 3 TRP Available Territories: Gibraltar, San Agustin, Austria, Mexico	
3. Queen Anne's War	Map: North America	4. Jacobite Rebellion	Map: Europe
 Bonus Strength: Conflict Markers, France, Sardinia Margin of Victory: 1-2, 3, 4+ Winner Gets: 1 VP, 1 VP + 1 CP, 1 VP + 1 CP + 1 N. Amer. Market + 1 CP Loser Gets: 1 TRP, 2 TRP Available Territories: Hudson Bay, Canada		 Bonus Strength: Duke, Dutch Republic, Ireland, Scotland, Conflict Markers Margin of Victory: 1-2, 3-4, 5+ Winner Gets: 1 VP, 2 VP, 3 VP Loser Gets: 1 TRP, 2 TRP Special: FR places 1 Jacobite Victory marker on Turn Track for winning with 1-4	

イライザは、たじろぎます。—彼女はターン1に非常に強力な経済的立場を確立した一方で、戦場ではかなり差をつけられました。解決する最初の戦域は、中央ヨーロッパです。イギリスは、フランスの「BR 負債+10」タイトルから直ちに1負債を取ります。これは、イライザをその負債限度に置くため、他の戦域でこれ以上予期しない軍事支出がないことを望まなければなりません。戦力は、以下のごとくなります。:



フランス:

- +2 タイルから
- +4 同盟スペース (バイエルン、ドイツ領邦、サヴォイ、デンマーク・ノルウェー) から
- 合計: 6



イギリス:

- +1 タイルから
- +1 同盟スペース (オーストリア) から
- 合計: 2

フランスは、ヨーロッパ戦域で4の差で勝利します。これは2 VP (VP=12) と1 征服ポイントを生み出します。ラジは、果物の優位性がカリブ海における彼の失地回復を手助けする、サン・アグスティン [San Agustin] を奪取するために征服ポイントを使用することに決めます。イライザは、2 条約ポイントを得ます (合計4)。



フランス:

- +1 タイルから
- +1 ビスケー内の戦隊により
- +1 統治キーワードにより
- +1 同盟スペース (スペイン) のため
- 合計: 4



イギリス:

- +1 タイルから
- +1 バレアレス内の戦隊から
- サルディニア内のイギリス同盟は、紛争マーカーを持つため戦力を認めません。
- 合計: 2

フランスは、スペイン戦域でも2差で勝利します。これはラジに1 VP (VP13 まで) と1 CP を得点させ、一方イライザは2 条約ポイント (合計6) を取ります。ラジは、ジブラルタルの CP を消費し、海軍基地 [Naval Bastion] の優位性を取ります。

アン女王戦争 (北アメリカ戦域) における戦力集計は、以下のとおりです。:



フランス:

- +2 タイルから
- +1 ルイブールについて
- +1 イギリス旗印下のオールバニ内の紛争マーカーのため
- 合計: 4



イギリス:

- +2 タイルから
- 合計: 2

フランスは、2 差でアン女王戦争に勝利します。これは1 VP (VP14 へ) のみで追加の領土獲得がないため、イライザは安堵の息をつきます。前のアクション・フェイズ中の彼女の軍事向上は、フランスの蹂躞を止めました。

最後に、ジャコバイトの運命を解決しなければなりません。

フランス :

- ・+2 タイルから (そして、イギリスはヨーロッパ内の1旗印を失わなければなりません。ラジは、オランダ共和国の旗印を選択します)。
- ・+1 同盟スペースから (アイルランド...ただし、下を参照！)
- ・+1 様式のキーワードのため (ジャコバイトは、とてもロマン的です！)。
- ・+1 **イギリス旗印下サルディニア**内の紛争マーカーのため。
- ・合計 : 5

イギリス :

- ・-1 タイルから (彼女のタイルの追加効果について、イライザはアイルランド内のラジの旗印を取り去ることを選択するため、彼はこの戦域内でその戦力からの特典を受けません)。
- ・合計 : -1

アイルランド同盟スペース内の旗印損失に起因して、フランスの合計戦力は4に調整されます。5の差により、フランスは1715年のジャコバイトの叛乱で無慈悲に勝利します。これは、フランスに4VPを得点させます (VP=18)。イギリスは、2条約ポイントを受け取ります (合計 : 8)。ラジは、**ターン記録欄**上にジャコバイト勝利マーカーも置きます。これは**#M-4** ジャコバイトの蜂起をより効果的にします。

フランスは戦争で全4つの戦域で勝利しましたが、自動的勝利ではありません (それを行うためには、全4つの戦域で可能な最大差の勝利で勝たなければならないからです)。戦争に続く勝利チェック・フェイズに、勝利は獲得されません (事実、勝利ポイントは、フランスの軍事的成功がイギリスの圧倒的な商業独占を緩和させることで、ゲームの開始時から3ポイント動かしに過ぎません)。

ここでプレイヤー諸氏は、リセット・フェイズに進みます。自身のプレイヤー・マットにその全ての基本戦争タイルを戻し (イライザが軍事向上のおかげでゲームから取り去ったものを除きます)、ゲームからスペイン継承戦争についてのボーナス戦争タイルを取り去り、プレイヤー・マット上の適切なボックスへオーストリア継承戦争についてのボーナス戦争タイルを加えます。オールパニとオーストリア内の紛争マーカーが取り去られます。

次いで、戦争配置フェイズに、プレイヤー諸氏はスペイン継承戦争ディスプレイを箱へ戻し、次の戦争 : オーストリア継承戦争をセット・アップします。それをボードの脇へ置き、各プレイヤー・マットから4枚の基本戦争タイルを引き、それらの表を伏せて新たな戦域内に置きます。これで、ターン2、後継者の時代の後半を開始するための準備ができました！

デザイン・ノート : イギリスは、領域褒賞と世界的需要を非常にうまく行い、次のターンのために大量の条約ポイントのストックを持ちます。イライザは、いくつかの大きな動きを行うことができ、早くターン2へ進みたいと感じています。ただし、フランスは、征服を通してその存在を増加させ、その旗印にイギリスが対抗することは困難です。これらは、ヨーロッパ内の強力な政治優位性も支配します。ここまでは誰にでもあるゲームですが...あなたがこの例と共にプレイしていたら、ゲームを続けたいと感じるでしょうか、それとも自身のそれをやり直すでしょうか！



旗印の注釈 [A Note On Flags]

18世紀には、フランスとイギリスの両方で軍事と市民制度が開花しました。このルネサンスと近代との間の橋渡しは、軍隊と企業が近代国家の規模と勢力範囲の拡張を始めたことを意味しますが、それ以前の時代からの個人の影響も残されました。

イギリスについては、最も明白な国旗の進化は、1707年に聖ジョージ十字と聖アンドリューのX形十字を組み合わせて統合王国をあらわしたことです。聖パトリックのX形十字は、1801年にアイルランドが組み込まれて連合王国と呼ばれるまで加えられませんでした。Imperial Struggleでは、イギリスの支配マーカーや戦隊に1707年旗を用います。イギリス海軍のエンサインが使用可能にもかかわらず、過多な白地はプレイヤー諸氏に見易さの問題を生じさせます。イギリスの東インド会社旗は、大英帝国が伸長するに連れて世界中に翻りましたが、合衆国が1777年にユニオン十字から青地に13の星に置き換える前につかの間翻したグラント・ユニオン旗に酷似しています。

フランスは、もっと複雑な事情を持ちます。ブルボン家の戦闘旗は純白で、これはジョークと思えるかもしれませんが、軍隊は降伏する合図として敵の旗を掲げるため、非常に多くの軍隊が白旗を振ってフランスに降伏しました。王族が存在するときだけ黄金のフルール・ド・リスも美しく飾られましたが、それは稀なことでした。これらの理由から、ゲームの見易さを考慮し、マップ上のスペース支配を示すために使用するフランス旗として、青色のフルール・ド・リスをあしらったカペー朝の標準旗を選択しました。軍がこの旗又は3つの大きな黄金のフルール・ド・リスを持つ変形を翻した前例がないわけではありません (Ontenoy, 1745: *The Confrontation between the French and the Allies*, 1873, ルールブックの17頁を参照)。

フランスの東インド会社旗は、同様に探すのに苦労しました。当時のフランス国旗は、ほとんど残っていません。今日見ることができるイメージの大部分は、19世紀から20世紀にかけての芸術家の解釈です。旗の詳細は会社の紋章であり、我々は歴史的に一致していると感じる解釈を選択しました。フランス海軍のエンサインは、イギリスのそれよりも複雑にデザインされましたが、確かに太陽王の精神と栄光を表現しています。

あなたがImperial Struggleをプレイしながら、これら二つの強大な敵対国の精神が、陸と海で自らをどのようにに体現したかを心に留めてもらうことを望みます！

Further Examples 更なる例



複雑なアクション・ラウンド [Complex Action Round]

この例は、アクション・ポイント消費についてのルール的大部分を説明する、フランスの単一アクション・ラウンドを扱います。

例：ターン6です。



フランスをプレイするラジは、3 と 2 の小軍事アクションを持つ投資タイルを選択します。








彼は#36「国富論 [WEALTH OF NATIONS]」をプレイし、そのボーナス効果を活性化させる学術キーワードについて#26M-26「ラヴォアジ [LAVOISIER]」を明らかにします。最初に、ラジは「国富論」によって指定されるごとく、自身の負債を2だけ減少させます。ボーナス効果は3 です。通常、イベント・カードの効果は、選択された投資タイルからのいかなるアクション・ポイントも消費される前に完全に解決されな

ければなりません (5.2、ステップ2)、追加のアクション・ポイントは例外です。これらは、投資タイルからのそれと共にプレイヤーが望む順番で消費できます。いまやラジは消費するための3 、4 、3 を持ち、「ラヴォアジ」に指定されるごとく、後二者は投資タイル上の基本値から1だけ増加します。最初カリブ海に焦点を当て、ラジは を最初に使用することに決め、ポルトー・フランス [Puerto Principe] 内の紛争マークを取り去るためにそれらの2つを使用します。小アクションでは1消費のみを行うことができるため、三番目のそれは浪費されます。ここで、ポルトー・フランスに隣接する市場を持ち、彼はプエルトリコ [Puerto Rico] 内の孤立状態のイギリスの旗印を取り去るために1 のみを消費します (5.4.2)。(ラジはすでにアクション・ラウンドの開始時に隣接を提供するためポルトー・フランス内に旗印を持ち、もはやそれは紛争マークを持たないため、これが 5.4.1 に従って OK であることに注意してください。)

続けて、ラジはここで自身の「私掠免許 [Letters of Marque]」の優位性を活性化させ、バハマ・ラン・ウェスト [Bahamas Run West] 内に紛争マークを置くために使用します。(それはイギリスの旗印下の非保護下なので、フランス艦隊は海賊からイギリスの旗印を保護しません。)これは、次のアクション・ラウンドの開始時にバハマ・ラン・ウェスト内のイギリスの旗印も孤立させます (孤立は、新たなアクション・ラウンドが開始されるまでセットにならないことを思い出してください。5.4.1)。ただし、ラジは、それでも優位性を取ることができ、バハマ・ラン・ウェストから旗印を取り去るために別の1 を消費します (紛争マークのために値引きされます。5.4.2)。この支配の変更は、紛争マークを取り去ります。残された1 で、ラジは追加の1 を行うために1負債を取り (アダム・スミ






スに感謝して)、これらで自身のためにパナマ・ラン・ウェストに旗印を置きます。

ボードを見て、ラジは自身の立場を向上させたと感じていますが(その旗印の1つを孤立ことで、イギリスが少なくとも対応しなければならない脅威が開かれました)、カリブ海内で4  を消費することは望みません。(一つには、それができないからです。一彼はすでに私掠免許を支配し、海賊の楽園はたったの2  しかありません。) 彼は、ヨーロッパに領域を変換します。彼はスウェーデンに旗印を置くために2  と、スペイン内の2コスト榮譽スペースに旗印を置くために他の2  を消費します。彼がヨーロッパ以外でいかなる  も消費しなかったため、領域を変換するために追加の消費をしないことに注意してください (5.3.4)。



損傷状態要塞の例 [Damaged Fort Example]






イライザは、ターン4にフランスをプレイしており、4  と2  を持つタイルを選択しています。魚はこのターンの世界的需要で、彼女は北アメリカで機会を見えています。イギリスはルイブール [Louisbourg] を支配し、前のターンに建設していますが、ジョージ王戦争中のイライザの1枚の戦争タイルによって損傷しています。彼女はルイブールから旗印を取り去るために全4  を消費します。コストは3 (ルイブールのスペース内に記載された数字)、プラス1です(相手側の損傷状態要塞を修理して奪うためのコストは、追加  だからです。5.6.4二番目のドットを参照)。アカディア [Acadia] 内のフランスの旗印は、要塞 (ibid) を修理するために必要な隣接を提供しませんが、カボット海峡内のイライザの戦隊は提供します。彼女はルイブール内のイギリスの旗印と損傷要塞マーカーの両方を取り去り、そこに自身の旗印を置きます。次に、彼女は新たな隣接フランス要塞のおかげで行うことができるジョージ・バンク [George Bank] に旗印を置くため、自身の小アクションからの2  を消費します。この方法で、彼女は小アクションを使用して彼女の魚確保を保証し(北東海峡から旗印を取り去ることは、小アクションでは認められません)、同様に低いコストで行うことができました。要塞はアクション・ラウンドの開始時に隣接している必要がなく、隣接を提供するために他の市場のみがこの要件を持つことに注意してください (5.4.1、二番目のデザイン・ノート)。



CDG プレイヤーのためのガイド

Imperial Struggle は、CDG の信奉者が使用したいいくつかのルールやメカニクスを捻りました。これは、プレイヤー諸氏が留意すべきいくつかの要素についての概要です。:

- *Imperial Struggle* では、イベントとしてプレイされるイベント・カードは、常にゲームから取り去られます。これは大部分の CDGs と対照的で、*Twilight Struggle* ではプレイされたイベントはアスタリスクを持つか、又は一度のみ発生することがマークされています。
- 革命の時代が始まる時、ゲームから全ての継承の時代カードを取り去ることを忘れないでください。これには、引きパイルとプレイヤーの手札からのそれを含めます。(もちろん、ターン5のデッキ・フェイズに直ちに全てを取り去るのではなく、継承時代カードが引かれる都度取り去ることができます。)
- イベント・シンボルを持つ投資カードは、タイルによって許可されたアクション・ポイントに加えて、イベントのプレイを認めます。大部分の CDGs では、プレイヤー諸氏はイベントのプレイとアクション・ポイント (又は、作戦ポイント、指揮ポイント等) の消費との間で厳しい選択に直面します。
- *Imperial Struggle* では、プレイの順番が固定されていません。代わりに、VP 合計によって主導権が判定されます。しかも、主導権を持つプレイヤーが先行する必要はなく、誰が先行するか選択します。
- 3 タイプの異なるアクション・ポイント  、  、  は、ゲームでは全て異なる使用方法と役割を持ちます。大部分の CDGs は、消費できる単一の方法を持つ単一のアクション・ポイント・タイプを持ちます。
- 数珠繋ぎのスペース支配は、*Twilight Struggle* やその他よりも多くの場合を認めます。あなたは直ちに市場に旗印を置いて新たに隣接したそれを掌握できませんが、旗印を置いた最初のスペースが代わりに要塞又は海軍スペースであると、それを行うことができます。

Historical Background 歴史的背景

継承の時代：イヴェントと閣僚カード

[Succession Era : Event and Ministry Cards]

イヴェント・カード：

#1 カーナティック戦争 [CARNATIC WAR]：フランスとイギリスの両国は、ムガル王の王子と東インドの他の統治者たち（特にハイデラバードのニザーム）との間の陰謀と闘争に取り込まれている—又は扇動している—ことに気づきました。これらの闘争は度々噴火して戦火を開くこととなり、ヨーロッパ諸国が地域と経済の利権を獲得する結果になりました。

デザイン・ノート：他の何枚かのイヴェント・カードと同様（例えば、「ジェンキンスの耳戦争」）、「カーナティック戦争」カードはたとえ主要なカーナティック戦争が帝国の時代中に発生しても継承の時代デッキ内です。これは、早期に発生していたかも知れず、オーストリア継承戦争のような広範な紛争に油を注いだことで知られるからです。これらの紛争に先行する機会を与えることで、ゲームの歴史的感触を豊かにします。

#2 合同法 [ACTS OF UNION]：1707年のイングランドとスコットランド王国の合併は、イギリス政策史上の分水嶺でした。以前は2つの王国は君主を共有していましたが、イギリス政府の主な狙いはそれぞれが常に個別の君主を戴く要求に対してスコットランドが与しないことの保証でした。スコットランド自体は大方が統合に反対と思われましたが、財政的な理由がその議会に初期法案の批准を促しました。それにもかかわらず、スコットランドは数十年に亘ってジャコバイト支持の温床であり続けました。

#3 熱帯病 [TROPICAL DISEASES]：西インド諸島で海軍又は商船に従事している者にとって最大のリスクは病気でした。新世界の残りの部分において、噛みつき虫や他の寄生虫は昔から（現在も）継続する病気の媒介者でした。現地の人口も、ヨーロッパから新たにもたらされた病気で大きな減少を被りました。加えて、アフリカ人奴隷は、大西洋を越えてアフリカ先住民の新たな熱帯病を、どちらも脆弱だったヨーロッパ人とカリブ海先住民にもたらしました。これは奴隷の価値を高騰させ、奴隷貿易のさらなる発展を招きました。

#4 南海の投機 [SOUTH SEASPECULATION]：南海会社（その貿易利権が南大西洋ではなく南アメリカにあったため、このように命名されました！）は、政府が債権を引き受けるようイギリス政府を説得することができました。イングランド銀行は、これまでそれを行うことを許可されていた唯一の機関でした。いったんフランスとの戦争が終わると、南海会社の重役は南アメリカ貿易からの潜在的な会社利益への投機的行動に移り、フランス王立銀行の法とも対抗する必要があると考えていました。しかし、これらの利益への道筋がないことが明らかになったとき株価が暴落し、何千もの投資家が破産しました。ウォールポールは、この危機をうまく復旧させることでかなりの評判を築き上げました、しかし、それでも広範囲にわたる悲慘さと荒廃がもたらされました。



#5 ジェンキンスの耳戦争 [WAR OF JENKINS' EAR]：伝えられるところによれば、フランスのフリゲート艦がイギリス海軍士官ロバート・ジェンキンスの船を臨検した際に、その「耳を切り落とし」たことによって引き起こされました。ジェンキンスの耳戦争は、南海会社とイギリス政府がカリブ海のスペイン領へ侵入するパワー・プレイをあらわします。特に注目すべきはアンソンの遠征で、ジョージ・アンソン

提督はカリブ海で大混乱を引き起こし、最後には無理やり太平洋に進出して中国まで航海しました。彼はフィリピンでスペインの莫大な財宝船団を捕獲し、喜望峯を回ってイングランドへ帰還することで、この地球を一周する長期間の航海を終えました。

#6 アメリカ先住民の同盟 [NATIVE AMERICAN ALLIANCES]：イギリスとフランスの両国は、アメリカ先住民と条約や経済交流で広範な関係を築くと共に、長年の部族間の対立を悪用して敵対部族間に支援を行いました。特にフランスは改宗を強要しないことで最終的に強力な信頼関係を築きましたが、北アメリカの全ての紛争において両陣営は先住民の偵察、案内、襲撃に依存しました。



#7 オーストリアとスペインの対立 [AUSTRO-SPANISH RIVALRY]：これら2つの王国は、考えられるほとんど全ての事柄：貿易、領土、港湾権、ヨーロッパとの関係で絶えずもめていました。それぞれが自らの王統治下での統一を望みましたが、この願望は世紀が進むに連れて弱まりました。この目的のため、これらはしばしばフランスやイギリスと事を構えました。：例えば、カールVI世は積極的にオランダとの貿易機会を追求し、それは彼にイギリスに対する交渉力を与え、イザベラ・ファルネーゼのオルレアン摂政に対する陰謀は、四国同盟戦争中にフランスのスペイン侵攻を導きました。

#8 税制改革 [TAX REFORM]：イギリスとフランスの両国は、数世紀にわたって強化されてきた特権や税回避の伝統を打破るため、様々な創造的手法やスキームを用いて、その税制システムの明確化と簡素化を求めました。税収を上げるための能力は、両国が切望していたインフラと軍事力の進歩が鍵でした。イギリスのこの分野での漸進的な優位性は、産業革命中に決定的になりました。

#9 大北方戦争 [GREAT NORTHERN WAR]：バルト海の覇権を巡るスウェーデンとロシアとの間の対立は、ヨーロッパ大陸の政策では重要事項でしたが、イギリスとフランスはそのほとんどをスペイン継承戦争に気を取られて過ごしました。ハノーヴァー選帝侯ジョージー後のイギリス国王ジョージー一世はロシ

アの味方をしました。1709年にスウェーデンがポルタヴァで敗北し、バルト海沿岸への野望は終わりを遂げましたが、後のスウェーデン君主は1700年代の末に自らの挑戦を行うことになりました。

#10 ヴァチカンの政策 [VATICAN POLITICS]: 18世紀の政策において、教皇庁は以前の2世紀のように中心的な役割を果たしていませんでした。しかし、それでも宗教的な配慮が決断を揺るがし、陰謀を駆り立てました。教会はいまだに大規模な支持を集めることができ、又は賛否両論の静かなざわめきが、好意と承認の表示と共に静かに鳴り響いていました。おそらく最も重要だったのは、1766年にハノーヴァー家とジョージ一世が大英帝国の正当な統治者となり、ジャコバイトの深刻な脅威を終わらせたことです。もちろん、バスターニユが陥落したとき、教皇庁は革命の反キリスト教主義を深刻な脅威と見なしました。

#11 キャリコ法 [CALICO ACTS]: キャリコ法は、綿のイングランドへの輸入を禁止しました。これらは、東インド会社がベンガルから海輸できた様々な大量の繊維との競争が困難な、イギリスの繊維工場所有者によって支持されました。大部分の重要な制限と同様、この法律は巨大な密輸の波をもたらしました。

#12 軍事支出の超過 [MILITARY SPENDING OVERRUNS]: 戦争は信じられないほど費用がかかり、18世紀(17、16...世紀も)の複数の君主が破産しました。帝国のために両王国が生産に必要としたものは莫大で、財政コストを莫大にしました。フランスは、驚くべきことに18世紀だけでレイプールの要塞に400万ルーヴルを費やしました。イギリスは、政府が負債を受けることで、海軍の規模を倍増させることができました。

#13 アルベローニの野心 [ALBERNONT'S AMBITION]: ジュリーオ・アルベローニは、フルーリーやデュボアのごとく、ヨーロッパの宮廷で強力な政治関係を形成した枢機卿でした。ただし、アルベローニはスペインの王宮廷で、スペインのフェリペV世の王妃イザベラ・ファルネーゼから信頼されるようになりました。スペイン継承戦争は、スペインとフランス両王権を継承するフェリペの正当性に関するものだったため、これはアルベローニを陰謀の中核に据えました。彼の野心的なイザベラへの奉仕は、戦争中にオーストリアとサヴォイに奪われたスペイン領土の奪回を彼に企てさせました。太陽王が崩壊し、オルレアン公爵が少年王ルイXV世の摂政となりました。アルベローニは、オルレアンを弱体化させて自身が摂政に取って代わるためにセラマールの陰謀を企てました。このようにして、彼はスペイン継承戦争の結果を事実上逆転できたかもしれません。



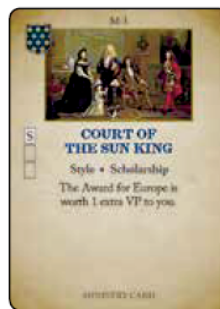
#14 アイルランドの飢饉 [FAMINE IN IRELAND]: 1740年に、破滅的な寒気がアイルランドの穀物とジャガイモの作物を一掃しました。これに続いて、残された穀物を破滅させる悲惨な干ばつが襲いました。援助努力は、港に押し寄せた季節外れの氷によって妨げられ、波止場は封鎖されました。アメリカからの最終的な食糧援助にもかかわらず、島の人口のほぼ三分の一が餓死しました。

#15 利息の支払い [INTEREST PAYMENTS]: 負債の利払い、ルネサンス中のヨーロッパでは普通になっていました。君主たちは、しばしば単に溜まった支払いを回避するために債務不履行の誘惑に駆られる一方で、これが将来借り入れる能力に影響を及ぼすことを知っていました。

閣僚カード:

#M-1 枢機卿 [THE CARDINAL MINISTERS]: ギヨーム・デュボワとアンドレ・エルキュール・フルーリーは、その伝統を引き継いで、フランス王の首相を務めました。(リシュリユーとマザランが始めました)。両者はヨーロッパの関係安定化に焦点を当て(イギリスとの公式な同盟の範囲にあっても!)、他の勢力の野心を抑えて堅実な財政を行いました。特に、フルーリーは *Imperial Struggle* の2つの継承戦争の間で、30年間の平時を監督しました。

#M-2 ジョン・ロー [JOHN LAW]: スコットランドの自然哲学者(現在では、経済思想家と呼びます)。ローは、スペイン継承戦争の後にフランス財政の立て直しを任せられました。彼はある程度成功しましたが、その不換通貨システムは崩壊し、他の改革(特に発展したフランスの重商主義インフラ)は、彼の後継者がある程度の財政的安定を固めることを可能にしました。



#M-3 太陽王の宮廷 [COURT OF THE SUN KING]: ヴェルサイユは狩猟ロッジとして開始し、劇的に変化しました。ルイXIV世が拡張を開始し、1680年代には常設のレジデンスとなり、ヨーロッパの宝石へと改築されました。彼はパリの慣習や取り決めを中断させ、完全に彼自身を中心に王宮を据えることを望みました。その豪華な庭園と印象的な宿泊施設は、ヨーロッパ中の大使や廷臣たちを感動させました。

#M-4 ジャコバイトの蜂起 [JACOBITE UPRISINGS]: 1715年の大規模な蜂起と、輝かしい革命とイギリス君主をスチュアート王朝の回復を目的とした1745年の蜂起は、最も有名なジャコバイトの叛乱です。しかし、実際にジャコバイトがやったのは、絶え間ない策略、陰謀、小規模な反乱で、その大部分は18世紀の前半に見られました。教皇庁がイングランドとスコットランドの正当な統治者としてハノーヴァー家を承認し、スチュアートの大義に対するカトリックの支持が崩壊したとき、ジャコバイトの野望は永久に消滅しました。

#M-5 ロバート・ウォルポール [ROBERT WALPOLE]: 多くの人は、イギリスで最初の本物の首相と見なしました。ウォルポールは3人の君主に仕え、手に負えない閣僚と議会からの納得できる合意を絞り込みました。最後は、大ピットによって食われました。ウォルポールは、安定した遺産を生み出し、イギリスの何十年間にも及ぶ成功した政策過程を図式化しました。

#M-6 ジョナサン・スウィフト [JONATHAN SWIFT]: アイルランドの詩人で評論家でもあるスウィフトは、*グリバー旅行記*と*穏健なる提案*の両作品で最もよく知られ、想像力に富んだ散文と政治的解説の縮図を組み合わせています。彼はイギリスの政治を分析する両陣営に影響がありましたが、アイルランドに対する彼の擁護はしばしば不興を買いました。



#M-7 東インド会社 [EAST INDIA COMPANY] : 1600 年に設立許可されたイギリス東インド会社は、インドと東インド諸島をめぐるイギリスの経済と軍事覇権のために奮闘し、最後には安定化しました。この成功は政策や社会に戻る形で波及し、新興の富裕貿易商人や会社役員が地所を購入し、良家の婦人と結婚し、議会で立候補しました。

#M-8 イングランド銀行 [BANK OF ENGLAND] : 銀行は、海軍の拡大に必要な資金を提供するための政府債務を促進するためのツールとして開始しました。1960 年代になるまで個人経営で、新たな貨幣を発行し（独占的に）、従来の銀行業務も行っており一般に貸し付けました。政府債務の安定した保有者であり、金融の安定とフランスに対する実質的な財政的優位性をイギリスが徐々に増加することを可能にした一貫性を提供しました。

#M-9 新世界のユグノー教徒 [NEW WORLD HUGUENOTS] : 北アメリカにおけるイギリスに対する全ての闘争で、フランスは人口という永続的な劣勢に直面しました。犯罪者や年季奉公人、特に異端宗教者を遠く離れた植民地へ送るイギリスの慣習は、フランスでは決して定着しませんでした。ルイは、潜在的に不忠実なプロテスタントの集団が遠方で形成されることを恐れ、もちろんいかなる場合にも彼が宗教的異議を唱えることはできませんでした。しかし、そうではなく、カナダとアカディアのフランス植民地は、地元民兵と兵站の面でイギリスに対抗できたかもしれません。

#M-10 エドモンド・ハレー [EDMOND HALLEY] : 主に彼が述べた彗星の軌道によって知られます。ハレーは、18 世紀王立協会で輝いた光の一人でした。彼は工学（潜水鐘の発明）、数学（彼を保険数理の創始者と見なす者もいます）、航海術において先駆的な仕事をしました。スペインの奴隷貿易契約の確保とともに、ハレーの革新は次の 2 世紀にイギリス海軍優勢の道を開きました。

スペイン継承戦争：タイルの背景 [War of the Spanish Succession : Tile Background]

イギリスの戦争タイル

+3
Marlborough
ジョン・チャーチル、マールバラ公爵（「アン女王の主将」）[John Churchill, Duke of Marlborough ("Queen Anne's Captain")] は、疑いなくイギリス最大の軍事指導者の一人でした。彼の機動、戦術、攻囲の妙は、ブレンハイム、ラムイ、アウデナールデで重要な勝利を手に入れ、最終的に統一されたフランス・スペイン超大国の創出を妨げました。

サー・ジョージ・ルーク [Sir George Rooke] は、九年戦争のヴェテラン海軍士官で、スペイン継承戦争が開始されるときまで艦隊の提督（イギリス海軍の最高位）でした。彼はビーゴ湾でスペイン財宝艦隊を決定的に撃破し、ジブラルタルに対する遠征の成功を導き、数代にわたる地中海におけるイギリスの勢力を盤石にしました。

統一議会 [United Parliament] : *Imperial Struggle* の 2 つの主要な敵対闘争は多くの点で異なりますが、最も重要なことはイングランド国王（そして短期的にゲームにあるスコットランド）がしばしば厄介な議会が持つ勢力を共有した統治でした。ホイッグ党とトーリー党との間で陰謀が高まったとき、イギリスの政策は悪影響を受け、これらが一緒に機能できたときのイギリスは強力でした。

ベンジャミン・チャーチ [Benjamin Church] は、プリマスのイギリス植民地における軍事指導者でした。彼はアメリカ先住民を不正規戦闘部隊に徴兵した最初のヨーロッパ人士官の一人で、ヨーロッパ製の武器を先住民の戦術にうまく組み込むことに成功しました。



サヴォイのオイゲン王子（「偉大な将軍」）[Prince Eugene of Savoy ("The Greatest General")] は、各戦争の決定的な瞬間に帝国主義部隊を率いました。彼は北イタリア、ライン流域戦役、低地諸国内で重要な役割を演じました。ブレンハイムにおける彼の右翼の指揮は、マルバラの鍵となる突破を可能にしました。戦争の過程で彼が果たした役割は、どれだけ述べても言い過ぎではありません。

レオポルト一世 [Leopold I] : 戦争開始時の神聖ローマ皇帝です。レオポルト一世は好機と見ました。一彼はオーストリアとスペインのハプスブルク領土を統合するため、フランスとスペイン間のブルボン王朝連合に対抗する、カール V 世下のヨーロッパの残りの勢力に挺入れられました。彼はこれに失敗し、戦争を生き延びませんでした。

ルートヴィヒ・ヴィルヘルム、バーデン・バーデン辺境伯 [Louis William, margrave of Baden-Baden] は、1680 年代にトルコに対してオイゲン王子と一緒に闘いました。スペイン継承戦争で彼はヴィラルールに敗れましたが復帰し、戦役の最高潮に達したブレンハイムの戦いで転機となる重要な役割を演じました。彼の右には偉大なオーストリアの将軍がいたため、その偉業はオイゲンほど注目されていません。

ユグノー教徒の叛乱 [Huguenot Rebels] : ルイ XIV 世のナントの勅令廃止は、1702 年に始まり戦争期間の大部分続いたカミザールの叛乱を含み、フランスに長期的な反響を残しました。ユグノー教徒グリラはカトリック教徒を虐殺し、王立軍に対する激しい戦いに従事して、戦争から注意や資源を逸らしました。一時期は、ヴィラルールさえ叛乱に対して指揮し、これがどれほど深刻な妨げになったのかを示しました。

ヘンリー・デ・マシュ、リュヴィニー侯爵とゴールウェイ伯爵 [Henri de Massue, marquis de Rouvigny and Earl of Galway] は、ルイ XIV 世がナントの勅令を廃止したとき、永久にフランス軍務を離れました。彼はアイルランドに定住してアイルランドの称号を受け取り、九年戦争とスペイン継承戦争の両方でイギリスのために闘いました。

サヴォイの敗北 [Savoy Defects] : 1702 年、サヴォイ公ヴィットーリオ・アメデーオは、陣営を変更して大同盟に与す好機と見ました。勝利の結果として統一されたフランスとスペイン王家の出現を恐れ、イタリア北部での手詰まりは彼にレオポルトへ提供するための重要な交渉用チップを提供しました。控えめに言っても、サヴォイの離反は中央ヨーロッパにおけるフランスの戦略的問題を複雑にしました。

賞金稼ぎ [Prize Hunting] : 賞金制度は、イギリス海軍士官たちの間に積極性と攻撃性を醸成しましたが、彼らを戦略目的から逸らす可能性がありました。

近衛歩兵 [Foot Guards] : イギリスの近衛歩兵、近衛騎兵、近衛擲弾兵は、全てスペイン継承戦争に従事しました。陸軍のエリートと見なされたこれらは、広範に關して殊勲を立てました。



フランスの戦争タイル



クロード・ルイ・エクトル・ド・ヴィラルール、ヴィラルール公爵（「フランスの救世主」）[Claude Louis Hector de Villars, marquis et duc de Villars ("Savior of France")] は、スペイン継承戦争におけるフランス軍の最も重要で成功した指導者でした。マルプラケ（1710年）で彼の部隊は同盟軍に20,000の損害を与えフランスは8,000でしたが、複数の主要な要塞が失われたので戦いは戦術的には敗北でした。二年後のドゥナにおけるヴィラルールの勝利は、君主の光栄ある平和を保証しました。



ルイ・ジョゼフ、ヴァンドーム公爵 [Louis Joseph, duc de Vendôme] は、スペイン継承戦争初期における多数のオーストリア軍の頓挫に最も貢献した司令官です。彼は何度かサヴォイのオイゲン王子を敗北させ、マールバラ公にとって非常に価値のある敵であることを証明しました。彼の最大の勝利はスペインで、ビリャビシオサで同盟軍を撃破し、ハプスブルク家のスペイン君主への望みを終わらせました。

ルイ・フランソワ・ド・ブーフレール、ブーフレール公爵 [Louis François de Boufflers, duc de Boufflers] は、その勇気と粘り強さにより、ルイ XIV 世とイギリス軍の両方から非常に尊敬されましたが、長い従軍期間中に悲喜こもごもの成功を収めました。ただし、彼はマルプラケでヴィラルールに従属した際に驚くべき謙虚さと判断を示し、極めて重大な戦いで指揮の統一を守りました。

王の家 [The Maison du Roi] は、ルイ XIV 世の王立部隊でした。その部隊は戦争を通じて殊勲を上げました。

カディスの拒絶 [Cádiz Refused] : ルーク提督の数少ない挫折の1つで、1702年に英蘭軍のカディスとサン・マタゴルダの要塞奪取の試みは、内部抗争と堅固で想像力豊かなスペインの防衛によって瓦解しました。

ルネ・ド・フルーレ・ド・テッセ、テッセ伯爵 [René de Froulay de Tessé, comte de Tessé] は、戦争で最も不運なフランス將軍の一人と思われます。ジブラルタルとバルセロナの奪取を試みる彼の優れた計画で失望したド・テッセは、ついにフランス南部で成功を収め、ツーロンでオイゲン王子の前進を停止させました。不幸にも、オイゲンの攻囲が成功した場合に備えて、そのフランス海軍戦隊はすでに自沈していました。ジブラルタルはいまだイギリスの手中にあり、これは地中海で対抗するフランスの希望を最終的に打ち砕きました。

ジェームズ・フィッツジェームズ、バーウィック公爵 [James FitzJames, Duke of Berwick] はマールバラの甥で、献身的なジャコバイトでした。彼は1688年の名誉革命で父ジェームズの陣営と闘い、太陽王に従軍しました。スペイン継承戦争では、彼はスペインで見事に闘い、1707年にアルマンサで重要な勝利を

収めました。彼は健康を維持して戦争を生き延び、四国同盟戦争とポーランド継承戦争の両方で太陽王の軍を率いました。

ヴィクトル・マリー・DESTREES、DESTREES公爵 [Victor-Marie d'Estrées, duc d'Estrées] は、スペインのフェリペV世のために両シチリア王国を確保することで君主の感謝を得ました。太陽王の究極の野望が実現していたら、両シチリア王国は統一フランス・スペイン王朝の一部となっていたでしょう。

王の遊戯 [Ultima Ratio Regum] : ルイ XIV 世は、国家間の紛争は常に力によって解決できるという彼の見方を強調するため、このモットーを文字通り「王たちの最後の議論」と彼の大砲に刻みしました。

銃士 [Musketeers] : 王室銃士の青いタバードは、アレクサンドル・デュマの作品を読んでいる人なら誰でも知っています。それは彼らの地位を単なる名声から伝説へと高めました。銃士としての務めは、貴族のために用意されました。

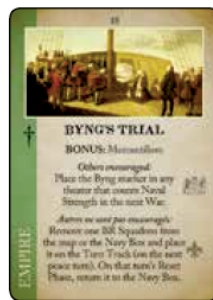
精鋭部隊 [Crack Troops] : 当時のフランス軍は世界中で最も恐れられた軍隊で、経験豊富で資金も潤沢でした。竜騎兵から擲弾兵、攻城砲兵まで、様々なタイプの多くのエリート部隊で特徴づけられました。

帝国の時代 : イベントと閣僚カード [Empire Era : Event and Ministry Cards]

イベント・カード :

#16 カリブ海奴隷の不穏 [CARIBBEAN SLAVE UNREST] : カリブ海プランテーション内の多くの奴隷たちは過酷な状況でした。病気、劣悪な労働条件、そしてアメリカからカリブ海へ送られた奴隷の運命を暗示する、「川を下って売り飛ばされた」と言われた限らない無慈悲さで恐れられていました。マルティニーク、グアドループ、ジャマイカ、アンティグア、その他プランテーション島の大部分の蜂起は、18世紀中の不穏なカリブ海を揺るがしました。

#17 家族協約 [PACTE DE FAMILLE] : スペインのハプスブルク家支配の終焉とともに彼の冠は安全で、フェリペV世（アンジュー公として生まれた）は、他の地中海地域のブルボン支配を確立し、甥のルイ XV 世と契約を結びます。これは、フェリペの野心的な女王エリザベッタ・ファルネーゼが、単に子供たちを豊かにするために何世代にもわたって支配していたハプスブルク家の領土を放棄するつもりがなかったオーストリアとの、成功した同盟を再活性化させるイギリスに門戸を開けました。



#18 ビングの裁判 [BYNG'S TRIAL] : ビング提督は、ミノルカ島で数的に優勢なフランス軍地上部隊（そして同様に拮抗した海軍）に直面し、部隊を上陸させないことに決めました。その結果、彼は自身の生命を代償にしました。今日、軍法会議と処刑は、不幸なビングにとって茶番とスケープゴート劇と見なされています。ピットは、公正さを保つことができませんでした（主にピットのキング・ジョージへの敵意に帰せられます）。pour encourager les autres（鼓舞する）という言葉は、ヴォルテールの鋭い風刺ペンから来ています（「他者を鼓舞するために、次々と提督を吊るすのは良いことだ。」）

#19 美しき世界 [LE BEAU MONDE] : 18 世紀は、様式、礼儀作法、マナーの爆発を見ました。ルイの政策は多数のユグノー教徒のデザイナーやドレスメーカーをロンドンへ追いやりましたが、フランスは間違いなくファッション世界の中心でした。結局、イギリスはこの独占に激しく挑戦しますが、伊達男ブランメル「ダンディズム」が特に男性ファッションを引き継いだ 19 世紀になるまではありませんでした。

#20 ハイダル・アリー [HYDER ALI] : 1760 年から死の 1782 年までマイソールのスルタンでした。ハイダル・アリーは、領域勢力内に自らの王国を築きました。彼は北部のマラーター、北東部のハイデラバードのニザーム、ヨーロッパ諸国と対立し、それらの全てから利益を得る彼の能力は、南インドの最も有力な統治者の一人として彼の名声を固めました。彼がスルタンになる前（イギリスの支援を受けて王になった前の家臣カンデー・ラーオに対するクーデターにより）、アリーはインド内の重要な戦役の大部分で、主にフランス陣営でマイソールの部隊を率いました。

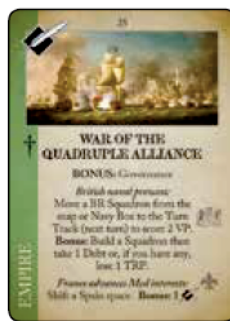
#21 コー・ホン・システム [CO-HONG SYSTEM] : イギリスとフランスの清との貿易は、このときは揺籃期でしたが、ポルトガルやネーデルラントのような他のヨーロッパ勢力は早くから浸食していました。清政府は中国沿岸都市の貿易を実施する交易協会に因み、「コー・ホン」と呼ばれたシステムを通してヨーロッパとの貿易を管理していました。

#22 コルシカの危機 [CORSICAN CRISIS] : 七年戦争の後、フランスはその領土の損失を補うことを欲しました。宰相 ショワズールの目は、新たな体制が一部の自由主義のためにますます孤立しているコルシカに舞い降りました。1768 年にフランスが侵攻したとき、他のヨーロッパ諸国がフランスの剥き出しの積極性を遺憾としたにもかかわらず、イギリス政府は介入の問題で揺さぶられました。結局、フランスは征服を完了しましたが、フランス革命中に再びコルシカがフランスから分離を試みて失敗したことを忘れませんでした。

#23 ヨーロッパの恐慌 [EUROPEAN PANIC] : 金融恐慌は 18 世紀を通して一般的で、重大度と規模は様々です。その原因は、軍隊、王室破産の恐れ（例えば、1640 年にチャールズ一世は王立造幣局で依頼人のために蓄えられた金細工職人の私的な金を単純に押収しました）、紙幣の乱高下、短期間で失敗する発展途上の保険市場、単純な政府による誤った負債管理、頻発する戦争、債権の切り下げ等々でした。世紀が進むにつれて状況は改善しましたが、もちろん、金融危機は今日も続いています。

#24 西アフリカの金鉱 [WEST AFRICAN GOLD MINING]

疾病と過酷な地形は、1800 年代後半になるまで「アフリカ分割」を引き延ばしましたが、アフリカ西岸には交易所、奴隷デポが点在し数は少ないものの重要な金鉱事業がありました。この生産は、スペインが征服したメソアメリカ文明から略奪した金の量には及ばなかったものの、西アフリカからの金は数十年間にわたってヨーロッパの経済を潤しました。

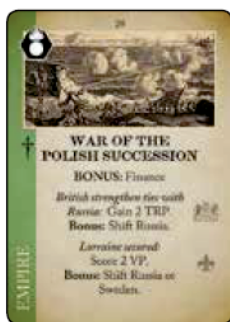


#25 四国同盟戦争 [WAR OF THE QUADRUPLE ALLIANCE] : アルベロニとファルネーゼのスペイン継承戦争の結果を覆すための断固たる努力への対応として、イギリスとフランスはこの野心を封じ込めるため（オーストリアとオランダ共和国と共に）同盟を結びました。イギリスは、パッサロ岬とビーゴで 2 つの重要な海軍勝利を獲得し、アルベロニは失望したフェリペ V 世によって宮廷を放逐され、フランスは一息つくことができました。

#26 SALON D'HERCUTE : 「ヘラクレスの間」又は「ヘラクレスのラウンジ」は、ヴェルサイユ宮殿で最も印象的な部屋の一つです。1736 年に完成し、鏡の間よりも親密で、ルイ XV 世にとって重要な外交的役割を果たしました。—その豪華さ、特にそれを飾る見事な芸術は、フランスの莫大な富、権力、文化的影響力を使節の心に焼き付けるために一役買いました。

#27 ベンガルの飢饉 [BENGAL FAMINE] : 1770 年のベンガル飢饉は、北東インドのイギリス支配下の領土を荒廃させ、一千万人が死にました。都市と小さな王国の全体が飢え、病気と山賊は、悲惨さを増大させるだけでした。干ばつ中の作物の不作、イギリス東インド会社の近視眼的、搾取的な政策、矢継ぎ早に起きた 2 つの大きな戦争の荒廃が災厄を引き起こしたことは疑いなく、破局への穏やかな挿話へと転じさせました。

#28 ル・ルーテュル神父 [FATHER LE LOUTRE] : アカディア（今日のノヴァ・スコシア）の宣教師ル・ルーテュル神父は、ジョージ王戦争（オーストリア継承戦争の一環）中にイギリス軍がレイプールを奪ったとき、自身がアカディア族、ミクマク族、その他先住民同盟の軍事指導者に任命されたことを知りました。この不運なゲリラ指導者は、何年間もイギリス軍の港湾襲撃を画策しましたが、結局 1752 年にボーセジュール砦で敗北しました。彼はアカディア族の支援を試みて残りの人生を費やしましたが、勝者のイギリス軍によって故郷から強制移住させられ、カナダの地に再定住しました。



#29 ポーランド継承戦争 [WAR OF THE POLISH SUCCESSION] : ポーランド王アウグスト II 世（出生ではなく選挙）の死は、3 人の継承候補者の間で継承の争いを促しました。大北方戦争中にスウェーデンの支援で戴冠したもののスウェーデンが敗れたときに逃亡したスタニスワフ I 世、故王の息子アウグスト III 世、ポルトガル・ハプスブルク家の王子インファンテ・マヌエルです。オーストリアとの同盟を強めていたイギリスは関わりませんでした。

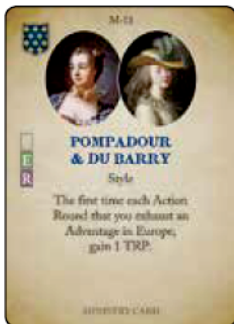
（そしてその同盟は、突然終了するかもしれないものでした）。ただし、スタニスワフの後ろ盾になることで、フランスはハプスブルク家から影響力を摘み取り（最終的にスタニスワフがアウグスト III 世に王位を譲らなければならなかったにもかかわらず）、以前に失った領土を回復する機会を奪いました。

#30 ジョナサンのコーヒー・ハウス [JONATHAN'S COFFEE-HOUSE] : 株式取引所が設立される前には、コーヒー・ハウスがありました。仲介人と金融業者が集まって大声で罵り合い、ニュース、ゴシップが飛び交い、(最も重要な) 株の取引と交渉が行われた場所でした。ジョナサンのコーヒー・ハウスは、最初に設立された取引所の1つで、イギリス最初の株式取引所の基盤となりました。

閣僚カード：

#M-11 ショワゾール [Choseul] : スタンヴィル伯爵エティエンヌ・フランソワ・ド・ショワゾールは、1758年から1770年までルイ XV 世の首相でした。ショワゾールと同じくらい重要で終身雇用された者は、ほとんど知られていません。ポンパドール夫人の強い味方だったショワゾールは、海軍力とヨーロッパとの同盟でフランスの競争力を再確立しようとしました。彼の政策は高くつきましたが、ポンパドールが支援して大臣に選出し、この野心的な財政改革を制定することができました。彼は七年戦争の災厄を生き残ることができましたが、ポンパドールの死後は完全に後ろ盾を失いました。

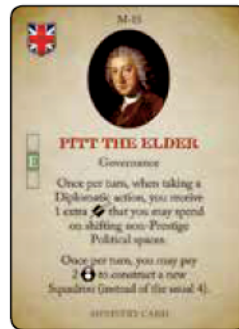
#M-12 ドゥプレクス [DUPELX] : ジョゼフ・フランソワ・ドゥプレクスは、インドにおけるフランス帝国の建設を夢見てその生涯を費やしました。彼は 18 歳で海に出て、その事業と政治の手腕で 20 代後半に裕福となりました。彼はインドでオランダ東インド会社に勤務して落ち着きましたが、結局シャンドルナゴルでフランス交易郵便の経営に当たりました。不幸にも、軍事に関して積極的、精力的である一方、彼はクートとクライヴの才能には匹敵できず、その計画は破綻しました。彼はラリと同様にスケープゴートにされましたが、斬首は免れ、祖国フランスで貧困のうちに死去しました。



#M-13 ポンパドールとデュ・バリール [POMPADOUR & DU BARRY] : ポンパドール公爵ジャンヌ・アントワネット・ポワソンは、オーストリア継承戦争と七年戦争の間、ルイ XV 世の主愛人(公妾!)でした。いったん王によってこの称号が許されると、彼女は宮廷で庇護と政策を司り、重要なフランスの芸術家や科学者を支援しました。La ReINETTE (小さな王女)として知られるポンパドールの最大の貢献は、王

権の背後で力を持ったのと同様に、才能を見出す領域にありました。マダム・デュ・バリールはもう一人の重要な王室の愛人でしたが、一般的に彼女は、政治ではなく芸術と社会関連に自身を限定しました。彼女たちはゴシップによって非難され、同時に宮廷の幅広い人たちに賞賛されました。

#M-14 ヴォルテール [VOLTAIRE] : フランソワ・マリー・アルーエは、ほぼ彼のペンネームであるヴォルテールと、その風刺で知られます。激しい宗教批評家で(「カンディード」で、彼はライプニッツの神の存在についての論争「最善世界の夢」を愚弄しました)。彼はフランスにおける革命の潜在性について、君主制と民主主義の両方に対する軽蔑に突き動かされた、複雑で込み入った見解を持ちました。



#M-15 大ピット [PITT THE ELDER] : ウィリアム・ピット(「偉大なる平民」)は、様々なポストや任用から政府を率い、これは彼の恐れを知らない批判精神と理念への執着が、国民の強力な支援を受けたためです。彼の偉業の中核は、七年戦争中に大英帝国を強力に指揮したことから生じました。王は彼と仲良くしませんでした(1750年代のピットの反ハノーヴァー一家の立場を決して許しませんでした)。

た)、彼はイギリスの偉大な指導者の一人でした。

#M-16 チャールズ・ハンバリー・ウィリアムズ [CHARLES HANBURY WILLIAMS] : イギリスの外交官で国會議員であり、「彼が自身に才能がないと感じていた」スピーチよりも(ウォルポールの敵を、程度の差こそあれ攻撃した)政治的な韻文でよく知られます。七年戦争までの数年間、彼は以前と到来する戦争の全交戦国—ベルリン、ドレスデン、ウィーン、サンクトペテルブルクを網羅したポストに就いていました。彼の成功は混交していましたが、少なくともイギリスとロシアが開戦することは防ぐことができました。

#M-17 商業銀行 [MERCHANT BANKS] : ベアリングス銀行は1762年にロンドンで開業しましたが、貸し手と保険者は少なく、何年か前から規模拡大の動きが芽生え始めていました。イギリス海軍力の成長は貿易を増大させ、その貸付、保険、投資への欲求を煽りました。

#M-18 サミュエル・ジョンソン [SAMUEL JOHNSON] : 「ジョンソン博士」は、18世紀はもちろんのこと、英国史上においても著名な学者で文学者です。有名な彼の辞典は別として、この種の最初のシェイクスピアのエッセイと英国詩人列伝は、多くの学者にとっていまだ決定的な価値を持ちます。

オーストリア継承戦争：タイルの背景 [War of the Austrian Succession : Tile Background]

イギリスの戦争タイル

サー・エドワード・ボスカーウェン提督 [Admiral Sir Edward Boscawen] は、12歳でイギリス海軍に従事しました。彼はジェンキンスの耳戦争とオーストリア継承戦争の戦闘を経験し、ビング提督の死刑執行令状に署名しました。「若者たちよ、フランス兵の白目が見えるまで絶対に射撃するな！」

ストリンガー・ローレンス少将 [Major General Stringer Lawrence] は、オーストリア継承戦争の開始時に東インド会社部隊の指揮を執り、インドにおけるほぼ全ての重要な戦役で指揮を続けました。彼はインドで最初の最高司令官となり、友人のロバート・クライヴと共に貢献しました。

サー・ピーター・ウォーレン提督 [Admiral Sir Peter Warren] は、カリブ海と北アメリカで広範囲に従事し、1745年に彼が指揮するイギリス艦船のルイブール強襲で最高潮に達しました。オーストリア継承戦争の後、彼はアメリカに保持している土地を手放してイギリスへ戻り、政治に関与しました。

カール・アレクサンダー、ロートリンゲン公 [Charles Alexander, prince de Lorraine] は、オーストリア継承戦争中のオーストリア軍人王の一人です。彼は 1757 年にリュッツェンでプロイセン王フリードリヒに惨敗したことで知られます。地の利を活かしたフリードリヒ大王は、装備に優れたオーストリア軍部隊を奇襲攻撃で打ち負かしました。後に彼は、オーストリアとネーデルラントで有能かつ評判の良い知事を務めました。

フリードリヒ・ハインリッヒ・フォン・ゼッケンドルフ

[Friedrich Heinrich von Seckendorff] は、18 世紀中に驚くほど多彩な軍隊と国家のために闘い、オランダ、オーストリア、ポーランド、イギリス、バイエルン、ザクセン、アンスバハの軍隊を指揮しました。彼が関わらなかった 18 世紀初頭の唯一の戦争は、大北方戦争でした。1730 年代後半のオスマン帝国に対する戦役を除く成功にもかかわらず、おそらくゼッケンドルフは *Imperial Struggle* 時代の戦士で最も過小評価された一人です。

国王ジョージ II 世 [King George II] は、ハノーヴァー家の二代目として、1727 年にイギリスとアイルランドの王位を継承しました。彼は生涯を通じて軍事的勇猛を発揮し、特に戦場で指揮を執った最後のイギリス君主となりました (1743 年のデッティンゲン)。



ジョン・ダリンブル第 2 代ステア伯爵 [John Dalrymple, 2nd Earl of Stair] は、スペイン継承戦争で闘いましたが、彼の父親がステア伯爵の階位を授与されて自身が子爵位を継ぐまで、統率の順位は上がりませんでした。戦争開始時から

イギリス軍部隊を率い、デッティンゲンで王の側に控えたダリンブルは自らを際立たせました。

バイエルンの混沌状態 [Chaos in Bavaria] : 1743 年、バイエルンとフランス同盟軍の指揮官ゼッケンドルフとド・ブロイは言い争いました。彼らの軍は一緒に機能することに失敗し、オーストリア軍の進撃に協調して対抗しませんでした。ド・ブロイは、バイエルンの要塞を次々に降伏させました。デッティンゲンの戦いで敗れたバイエルン軍とフランス軍は、ほぼライン川まで押し戻されました。その結果として、フランス軍はドイツから完全に駆逐されました。

ワルシャワ条約 [Treaty of Warsaw] : オーストリア継承戦争中の 1745 年に調印されたこの条約は、大英帝国、オーストリア、オランダ、ザクセンの四ヶ国同盟で、マリア・テレジアの神聖ローマ帝国への要求を保証することが目的でした。ロシアと同盟を結んだザクセンとオーストリアは、プロイセンのフリードリヒ大王が 1713 年以前の国境に下がることを希望しました。

ハンガリーの熱意 [Hungarian Enthusiasm] : フリードリヒ大王は、1739 年にオーストリアのシュレージエン地方を占領しました。1741 年に、オーストリアのマリア・テレジアは、生まれたばかりの息子ヨーゼフ II 世を抱いてブタペストの国会に立ち、ラテン語でハンガリーの貴族たちに支援を求めました。この訴えに触発されたハンガリー人たちは、常備軍よりも多くの 60,000 名の軽装部隊を集めました。最後には、新たな軍はシュレージエンを奪回し、バイエルンに侵攻しました。

フランソワ・ド・ビュッシー [Francois de Bussy] : オーストリア継承戦争で勢いがつくに従い、フランスはイングランドの王位をチャールズ・スチュアート王子に回復させるため、ロンドンへの奇襲攻撃を計画しました。しかし、不満を持つ積荷事務

官で二人の廷臣の息子であるフランソワ・ド・ビュッシーは、計画の詳細を 2,000 ポンドで売り渡しました。イギリスは彼の情報で行動し、素早く海軍の防衛策を取りました。これらの防衛と悪天候が組み合わさり、1744 年 3 月にフランス軍はその侵攻計画をケンティッシュ海岸で放棄しました。



ロバート・クライヴ [Robert Clive] は、オーストリア継承戦争が勃発したとき、素朴な東インド会社の役員でしたが、教養と勇気でたちまち頭角を現しました。1746 年に会社の武装部隊に加わり、何度かイギリスの領土を防衛しました。しかし、彼の永続的な伝説が形を成すのは、七年戦争においてでした。

フランスの戦争スタイル



モーリス・ド・サククス [Maurice de Saxe] は、18 世紀の最も偉大な将軍の一人と見なされ、その女性遍歴と強力な身体&活力で知られます。彼は (異なるときに) 神聖ローマ帝国、(オーストリア) 帝国軍、フランス軍に仕えました。オーストリア継承戦争中は、1741 年にオーストリアへ侵攻するために送られたフランス軍部隊を指揮し、密かに守備隊によって守られていたプラハを奇襲攻撃で占領したことで有名になりました。1744 年には、イギリスを侵攻するために送られた兵士たちを指揮しました。彼の部隊は、泊地から数マイル進んだ後で嵐によって難破しました。彼は自身の戦争芸術を反映させた書物『我が夢想』[*Mes Rêveries*] の作者としても知られます。

ジョージ・マレー卿 [Lord George Murray] はスコットランド・ジャコバイトの将軍を務めました。1745 年のジャコバイトの蜂起中、彼はチャールズ皇太子の命令に反して退却を命じたことを叱責されました。翌日、皇太子は自ら部隊の指揮を執ることを主張しました。彼の回想録によると、ジェームズ・ジョンストンは以下のように述べました。「もしもチャールズ皇太子が遠征中ずっと寝ており、ジョージ卿に活動することを認めていたら...彼は目が覚めたときに自らの頭上に大英帝国の王冠を見つけていただろう」。

ジョン・オサリヴァン大佐 [Colonel John O'Sullivan] は、パリとローマで司祭としての教育を受けました。カトリック教徒として、彼は両親のアイルランドを継ぐことができませんでした。彼はフランスに移住して軍に加わり、1745 年にチャールズ皇太子のスコットランド侵攻に同行しました。戦役におけるオサリヴァンの役割についてかなりの論争があり、その大部分はカローデンの敗北について彼がどれだけ非難に値するのかが焦点が当てられました。ただし、彼は皇太子のイギリス脱出手助けし、フランスで英雄として亡くなりました。

ルイ・ジョルジュ・エラスム、コンテス公爵 [Louis Georges Érasme, duc de Contades] は、彼を高位へと引き上げたオーストリア継承戦争における従軍よりも、ブランシュウィックのフェルディナントによるミンデンの惨敗で遥かに知られています。

ニザームの支持 [Nizam's Favor] : ハイデラバードのニザームは、現在のアンドラ・プラデーシュ州の重要な君主でした。フランスとイギリスの両者は、ニザームの援助を求めました。1748 年にニザームが亡くなると、その間の王位をめぐる紛争が発生しました。ハイデラバードは、フランス同盟国のムザファル・

ジャンの支配下となりました。ただし、1759年までにハイデラバードの防衛を担当するフランス軍司令官ド・ビュッシーは、ボンディシェリに召還されていました（この時期には、イギリスのためにスパイ行為を行ったド・ビュッシーに攪乱されていませんでした）。ロバート・クライヴ麾下の小部隊によるハイデラバードへの奇襲攻撃成功後、ニザームはイギリスの支援を乞いました。



プロイセン王フリードリヒ二世（「フリードリヒ大王」） [Frederik II, King of Prussia ("Frederick the Great")] は、その軍事的才能とプロイセンをヨーロッパの大勢力に築き上げたことで知られます。1745年までに、彼はシュレージエンの大部分をオーストリアに割譲させることを強いました。ハプスブルク家に対する彼の野心は、オーストリア継承戦争中にフランスと連携させました。ただし、戦争の舞台となったヨーロッパ内であまりにも勢力がシフトしたため、フランスは七年戦争ではかつての同盟国が大陸で躍進することを抑えました。

ユルリク・フレデリック・ウォルデマール、ロワンダル伯 [Ulrich Frédéric Woldemar, comte de Lowendal] は、ドイツ生まれのフランス軍士官でした。1747年にベルゲン・オブ・ゾームの要塞を攻囲して占領しました。フランス軍兵士は町を容赦なく略奪し、数千人の市民を死傷させました。多くのヨーロッパ人が激怒し、ルイ XV 世はウォルデマールについて以下のように告げられました。「彼を吊るすか又はフランスの元帥にするか二つに一つです。」王は後者を選択しました。

クルト・フォン・シュヴェーリー元帥 [Field Marshal Kurt von Schwerin] は、最初はオランダ軍に従事し、1720年にはプロイセン軍に従事しました。1730年には、逃走したプロイセン皇太子（後のフリードリヒ大王として知られる）を裁く軍法会議構成員の一人でした。後に、フリードリヒはシュヴェーリーに伯爵位を与え、1741年に彼はシュレージエン戦役におけるプロイセン軍の勝利を導きました。彼は後に他の戦いでも勇猛さで有名になりましたが、1757年のプラハの攻撃で射殺されました。

フランソワ・ド・フランケット、コワニー公 [François de Franquetot, Comte de Coigny] は、ライン流域軍の司令官としてヴィラル元帥と交代しました。彼は1734年のポーランド継承戦争中にパルマでオーストリア軍に勝利し、オーストリア継承戦争中にフランス軍のライン川の防衛を監督したことで最もよく知られています。

マヘ・ド・ラ・ブルドンネ [The Mahé de la Bourdonnais] は、注目に値するフランス人船乗りで、現在のモーリシャス島のフランス植民地化に責任を持ちました。1735年に島に到着したとき、彼は北西に湾を持つ小屋の小さな集まりが、ポート・ルイスの都市内に成長する首都のための理想的な場所であることに気づきました。総督である彼は、技術者、建築家、農学者、彼が建てた病院の監督者として活躍しました。1741年、彼はインドのマヘで攻囲されたフランス軍を救出し、後にボンディシェリの総督デュプレクスの救助を要請されてイギリス軍と闘いましたが、彼とデュプレクスはマダラスの処分をめぐる争い、デュプレクスはラ・ブルドンネを反逆罪で起訴しました。フランスの島へ戻る航海中、彼はイギリス軍に捕らえられてロンドンへ送られ、そこで解放されました。1748年にフランスへ帰還した彼は、逮捕されてバスターニュへ送られました。最終的には無罪が宣言されましたが、1753年に亡くなりました。

ボニー・プリンス・チャーリー [Bonny Prince Charlie] : チャールズ・エドワード・スチュアート王子は、追放されたイギリス王ジェームズ II 世の息子でした。皇帝チャールズ VI 世が1740年に崩御したとき、スコットランドとフランスのカトリック教徒とイングランドのプロテスタントとの間で緊張が高まりました。チャールズは、父親の支援でジョージ II 世を王位から追放することを期待して、イングランド侵攻を計画しました。彼は1745年にスコットランドへ上陸し、ハイランダーの支援を得ていくつかの戦いで勝利しました。ただし、彼とその軍がロンドンへの行軍を試みたとき、スコットランドへの退却を強いられました。カロデン・ムーアで敗北したチャールズはイングランドを通り抜けて逃走し、難破した商人と貴婦人に変装したと伝えられます。最終的に、彼は無事にフランスへ戻りました。1748年にイギリスがフランスと和解したとき、チャールズはフランスから追放されました。彼の支持者は消え去り、彼は父親の意志から除外され、1788年に亡くなりました。

七年戦争：タイトルの背景 [Seven Years War : Title Background]



イギリスの戦争タイトル

ジョン・ブラッドストリート [John Bradstreet] は、オンタリオ湖の重要なフランス軍拠点であるフロンテナック砦を攻撃するイギリス軍を指揮しました。

サー・ウィリアム・ジョンソン [Sir William Johnson] は、イロコイ族専任のイギリス主外交官で、何度かの機会で先住民戦士を率いました。彼はナイアガラ砦を奪取し、アマーストに帯同してモンリオールへ向かいました。戦後、彼はイロコイ族、イギリス軍、フランス陣営で参加した部族との間に肯定的な関係を築きました。

エドワード・ホーク提督 [Admiral Sir Edward Hawke] は、キプロン湾でフランス軍を破ったイギリス艦隊を指揮し、フランスの制海権又はイギリス軍と対等に立つ野望を終わらせました。湾内でコンフランの艦隊と交戦する彼の攻撃的な機動は、フランス軍司令官を驚愕させ、フランス軍による侵攻の脅威を終わらせました。



ロバート・クライヴ（「インドのクライヴ」） [Robert Clive] (["Clive of India"]) は、世紀半ばにおける最高の将軍で政治家の一人でした。

1751年、彼はカーナティック・ナワブ・チャンドル・アリーに対してアルコットを保持しました。アリーのドックレプスとフランス軍との親密な同盟は、七年戦争へ至る最初の勝利を収めました。彼はベンガル地域のイギリス支配を強固にした1757年のプラッシーの勝利と、その後の大胆不敵な統治でよく知られます。

ロバート・モンクトン [Robert Monckton] は、北アメリカで最も規律正しい士官の一人で、ノバスコシアと本土で戦役を遂行しました。彼はアブラハムの平原で闘い、カナダのための戦争が終わった後、アマーストは彼のマルティニーク占領（確かに彼は占領しました）を非難しました。結局フランスは、条約のテーブルでマルティニークと交換でニュー・フランスの支配権を譲ることになったため、ある意味で、モンクトンはイギリスのためにカナダで勝利しました。

ジェフリー・アマースト [Jeffery Amherst] は、カンバーランド公爵の下で短期間ヨーロッパにおいて闘い、1758年にアバクロンビーから北アメリカの指揮を執り、1760年にモンリオールを奪取するまで容赦なくフランスの地所を削り取りました。彼

は「忌まわしい民族」として誹謗したアメリカ先住民に、天然痘を意図的に広めたことでも知られます。

ジョン・マナーズ、グランビー侯爵 [John Manners, Marquess of Granby] は、大陸におけるイギリスの最も重要な同盟国ブランズウィックのフェルディナンドと共に七年戦争の大部分を闘いました。彼はいくつかの重要な戦いで名を上げ（たとえミンデンで、グランビーの騎兵がフランス軍の追撃を拒否したとしても）、その絶大な人気を成功した政治経歴に拡大しました。

ジェームズ・ウルフ [James Wolfe] は、1759年にアブラハムの平原でド・モンカルム侯爵に対して勝利したことで最もよく知られています。両将軍が死亡したにもかかわらず、これはイギリスがカナダのための戦争に勝利するために与えた最後から2番目の打撃を証明することになります。

サー・エア・コート [Sir Eyre Coote] は、イギリス東インド会社に勤め、特にインドにおいてフランス代理同盟国のムガル王子とフランス自体とは三十年戦争（両国は七年戦争、特にワンディウオッシュの局地戦、アメリカ独立戦争に参戦しました）で闘いました。彼はクライヴを軽視してコミュニケーションを悪化させましたが、彼らの統合された輝かしい結果に難癖をつけることは困難です。

モルタ・ラ・ベスティア [Morta la Bestia]：（「野獣はお陀仏だ」）。ロシアのエカテリーナ皇后の死と、その息子でフリードリヒを崇拝するピョートルが戦争継続を望まないことを聞いた際の、フリードリヒの言葉として伝えられています。

忌々しい豪胆 [Damned Audacity]：キブロンと、数日前のラゴス（ポルトガル）で、コンフランをキブロン湾で窮地に追い詰めるホーク提督の積極的な決断により、イギリスの努力は最高潮に達しました。彼はフランス軍との交戦に持っていく何度かの試みに失敗して溜まっていた欲求不満によって動機づけられていたのか、又は単に好機を手中にしたのかも知れません。同様に、エドワード・ボスカウェン提督は、解いた封鎖に完全な焦点を当てたまま維持し、フランスのアウグスト・ドゥ・ラ・クリュー提督艦隊の後衛が最初の封鎖ポイントを脱出し、方向転換してすり抜けることを防ぎました。これにより、ラゴスの近くで戦闘を強制し、フランス軍戦隊を撃破することをボスカウェンに認めました。



老フリッツ [Old Fritz] はフリードリヒ二世の愛称で、1740年にプロイセンの王位を継いだ軍事的天才です。彼はプロイセンを戦場と学問の両方でヨーロッパ勢力内に組み込み、オーストリア継承戦争と七年戦争の両方でプロイセンの領土に加えました。もちろん、彼は敬意を込めた「フリードリヒ大王」としてよく知られています。



フランスの戦争タイトル

トーマス・アーサー、ラリー伯爵 [Thomas Artur, comte de Lally] は、1745年のジャコバイト蜂起時に、ボニー・プリンス・チャールリーの顧問を務めました。カローデンでチャールズが敗北した後、ラリーはインドに行き、ワンディウオッシュの戦いでサー・エア・コートに南インド内のフランス領土の大部分を失うまでに、東インド会社部隊に対して大きく健闘しました。デュプレクスと共に、彼はインドにおけるフランスの退潮について法廷でスケープゴートにされ、斬首されました。

ヴィクトル・フランソワ、プロイ公爵 [Victor François, duc de Broglie] は、七年戦争で大部分のフランス軍元帥の従属司令官を務めました。彼は信頼性が高く有能で、ミンデンの敗北後に

最終的な指揮を執りました。彼は自身を賞賛したグランビーと深いライバル関係にありました。

シユール・ルイ・クロン・ド・ヴィリエ [Sieur Louis Coulon de Villiers] は、1754年にネセシティ砦の指揮官だったワシントンに砦の降伏を強要したことで有名です。

フランソワ・ド・シャレット [François de Chevert] は、*Imperial Struggle*の最初の3つの戦争で続けて成功した軍団司令官でした。彼の豪胆さは、ハステンバックでカンバーランド公に対して、ルッターベルクでハノーヴァー家のもう一人の司令官（フォン・エーベルク）に対して際立ちました。彼は、*Volontaires Royaux* と *Chasseurs de Fischer* を含む、フランスで最も榮譽を持つ部隊のいくつかを戦いで率いました。

クーリュール・デ・ボワ [Coureurs des bois]：「森を駆ける者」。

これらのフランス人猟師や商人は、彼らと共生した先住民人口に次ぐカナダと北アメリカ原野の主たちでした。彼らは北アメリカにおけるフランスの戦争努力に、斥候や道案内として従事しました。その経験と土地の知識は、しばしば戦いに重要な切っ先を提供しました。

ルイ・アントワヌ・ド・ブーガンヴィル伯爵 [Louis-Antoine, comte de Bougainville] はその長い生涯の中で様々な才能を発揮し、航海士、船長、陸軍士官、外交官として世紀に足跡を残しました。フレンチ・インディアン戦争では、1759年の挫折の前に成功したフランス軍の行動の大部分に参加しました。多大な努力にもかかわらず、彼の後に指揮した士官のモンカルム公爵はイギリス軍からケベックを守ることに失敗しました。戦争の後、彼は地球を周回する最初のフランス人船長となり（ソロモンのブーゲンヴィル島は彼に因んで命名されました）、アメリカ独立戦争中はイギリス軍に別の機会を掴み、彼とその船はヨークタウンからの脱出を望むコーンウォリスを封鎖するフランス艦隊の一員でした。



ルイ・ジョゼフ・ド・モンカルム・ゴズン、サン・ベラン侯爵 [Louis-Joseph de Montcalm-Grozon, de Montcalm de Saint-Veran] は、七年戦争でフランス軍の最も有能な司令官の一人でした。紛争初期、彼はイギリス軍からオスィーゴとフォート・ウィリアム・ヘンリーを占領しました。これらは、ニュー・フランスに対する敵の軸を妨げることをフランス軍に認めました。同様に、彼はタイコンデロガで圧倒的なイギリス軍に対して防衛しましたが、その積極的なアプローチは彼をケベックのアブラハム平原内で危険と死へと導きました。

ダニエル・リナール・ド・ボージュ [Daniel Liénard de Beaujeu] は勇敢かつ有能な将校で、先住民戦法の採用とフレンチ・インディアン戦争初期の先住民同盟の指揮統率で注目されました。彼はモンガヒラ川の交戦で早い時期に戦死しました。



シャルル・ウジェーヌ・ガブリエル・デ・ラ・クロワ・ド・カストリー、カストリー公爵 [Charles Eugène Gabriel de la Croix de Castries, marquis et maréchal de Castries] は、オーストリア継承戦争における武勇により国民の賞賛を獲得しました。七年戦争では、クローステル・キャンプでブランズウィックに勝利する前に、ロスバッハとミンデンを含むいくつかのフランス軍の敗北に参加して、負傷しつつ勇敢に闘いました。これは、フランス政府内に長期にわたる成功した経歴の舞台を用意しました。バステューが落ちたとき、カストリーはいち早く王党派につきました。

モノンガヒラの待ち伏せ [Monongahela Ambush] : デュケイン砦に対するブラドックの遠征は、フランス軍と先住民部隊が待ち伏せしてブラドックの赤服たちの士気を崩壊させたときに最高潮に達しました。荒れた地形がブラドックの砲兵を無力化し、地域に対する先住民戦士の比類なき知識がイギリス軍を混沌状態に投げ込みました。

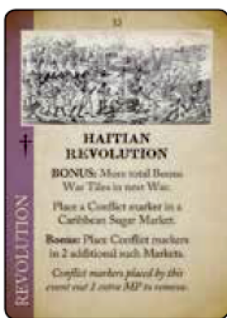
ハディークの襲撃 [Hadik's Raid] : コリンにおけるプロイセン軍の敗北に対応して、アンドラス・ハディーク伯爵は約 5,000 名の騎兵分遣隊を率い、思いがけず平坦な道筋に沿ってベルリンへたどり着くと都市を占領しました。守備隊は完全に不意を突かれました（そして、相手側を見て数で圧倒されていると思い込みました）。ハディークの兵たちは降伏と莫大な身代金の支払いを強要し、プロイセン軍の増援が到着するよりも先に急いで離れました。

ナワーブの結集 [Nawabs Rally] : インドにおけるフランスの軍事努力は、そのインド同盟国の裏切りと信頼性の低さにより一貫して弱体化されました。イギリスは、単にインドで多くを決した秘密の協定と了解事項でより良いものを持ちました。加えて、先住民同盟国は、しばしば戦闘で苦戦する最初の合図で撤退しました。ただし、フランスの同盟国がより安定していたことはもっともらしくもあり、これは二つの王国のどちらがインドを支配するのかを決める上で、決定的な切っ先を提供したかも知れません。

革命の時代 : イベントと閣僚カード [Revolution Era : Event and Ministry Cards]

イベント・カード :

#31 ヌートカ事件 [NOOTKA INCIDENT] : 1789 年、イギリスとスペインの貿易業者間の緊張は、ヌートカ湾（バンクーバー島の近く）で頂点に達しました。スペインは太平洋沿岸線の全てを主張し、イギリスの貿易業者も黙ってはいませんでした。それが、それが戦争は回避されました。スペインはこれら航路の排他支配から退くことを強制されました。太平洋の海洋取引へのさらなるアクセスは、非常に利益をもたらすことが証明されます。



#32 ハイチ革命 [HAITIAN REVOLUTION] : トゥーサン・ルーヴェルチュールによって導かれた 1791 年のセント・ドマング奴隷叛乱は、史上最も成功した奴隷蜂起でした。ハイチは新たな主権国家となり、奴隷制度を廃止して共和国を建国しました（終身国家元首としてのルーヴェルチュールと、唯一許された宗教がカトリック教であるにもかかわらず）。ルーヴェルチュールは、軍事

努力に屈しない準備が整うまで、フランスとスペインそれぞれに対して狡猾な横柄さを演じました。

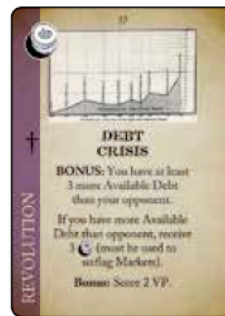
デザイン・ノート : ハイチ革命は 1791 年に起きたため、*Imperial Struggle* が扱う期間外になりますが、革命の数年前にルーヴェルチュールが解放されていた潜在性はありました。カリブ海の暦におけるこのような重要な出来事をイベント・カードに入れられないことは、不面目とも思われました。

#33 九詩紳会所 [LOGE DES NEUF SOEURS] : フランスのいくつかの親米的なフリーメーソンのロッジの一つである九人の姉妹は、革命を財政的、精神的の両方で支援しました。これらの理想主義的な集まりで発生する勢いは、革命の成功でのみ強さを獲得し、同様にフランス革命へと突き進みました。

#34 ラ・ガベル [LAGABELLE] : フランスの塩税は、農民と下層階級の労働者が旧体制下で苦しまなければならなかった何十もの税で最も面倒なものの一つでした。著しく持続的で、18 世紀の実質的に改革できないフランスの税制を代表するそれは、1790 年に革命政府によって直ちに廃止されました。これをナポレオンが復活させ、第二次世界大戦までを通して有効に存続します。

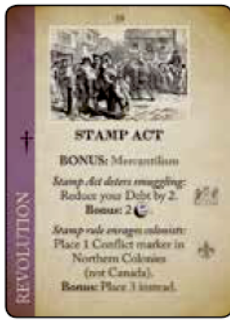
#35 イエズス会の廃止 [JESUIT ABOLITION] : 1760 年、マルティニークの砂糖産業が崩壊しました。フランスにとっての財政危機で、植民地がイエズス会士によって主に所有されて管理されていたという点で、これは注目に値しました。災厄は、会士の政治的、宗教的なライバル（特に国王との関係を支持することに対する彼らの拒絶のためにイエズス会士を恨んだポンパドール夫人）に、待ち望んでいた機会を与えました。彼らはイエズス会に対する連携した法的攻撃を開始しました。これは広くカトリック君主制国に広がり、法王の支持さえ得ました。

#36 国富論 [WEALTH OF NATIONS] : 経済学者にとって、スコットランドの自然哲学者アダム・スミスによる「国富論」の発行は、1776 年の最も重要な出来事だったという真剣な議論があります（どのような革命なのか?）。国富の性質の体系的で強力な分析、専門性の重要さと人間の意図しない利己的なふるまいの継続についてです（スミスの忘れたい比喻「見えざる手」に見受けられます）。この書物に書かれたものは、今日に通じるものです。



#37 債務危機 [DEBT CRISIS] : *Imperial Struggle* の革命の時代になるまで、両勢力は戦争、海軍建設、多数の他の投資に巨額を使いました。そのいくつかは実を結び（イギリスの東インド会社のような）、いくつかはそうなりませんでした。それにもかかわらず、債務危機、インフレ、デフォルトの脅威は時代を通して、特にフランスでは恐慌と不確実性を引き起こしました。歴史的には、数世紀にわたって時代遅れの財政と課税の方法をクリアしてきたイギリスには及びませんでした。

#38 東アジアの海賊 [EAST ASIA PIRACY] : この時期までに、カリブ海の私略船と海賊船が大きく衰退していた一方、アフリカ沿岸と東アジアではいまだに盛んで、特にマラッカ海峡の近くと東南アジアの王国の周辺がそうでした。これはインドを過ぎてからの通商路に危険を加えましたが、ヨーロッパ勢力はこのような遙か彼方の水路にさえ徐々に掌握していきました。



#39 印紙法 [STAMP ACT] : 1765 年に通過したイギリスの紙製品と書類への関税は、アメリカの革命における大きな火花でした。議会がそれを廃止したのはほんの数か月後でしたが、ダメージは残されました。

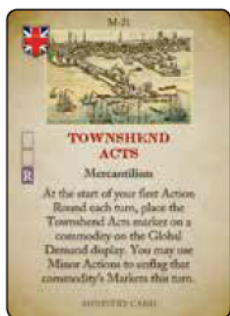
#40 フォークランドの危機 [FALKLAND CRISIS] : イギリスとスペインの両国は、南アメリカの南端から外れたフォークランド諸島（「マルビナス諸島」）の領有を主張しました。1770 年にスペイン軍部隊がイギリスからポート・エグモントを奪い、国際的な危機が招来しました。ショワズールは、七年戦争の敗北の後で戦いがしたくてうずうずし、スペインの主張を支持して島の上で本格的な戦争に拡大しようとしたのですが、ルイ XV 世は異議を唱えました。これはショワズールに対する致命的な打撃となり、危機の中で地位を去りました。

#41 クックとブーガンヴィル [COOK AND BOUGAINVILLE] : イギリスとフランスのこの世紀で最も偉大な二人の探検家は、それぞれジェームズ・クックとルイ・アントワヌ・ド・ブーガンヴィル伯爵でした。クックのそれまでヨーロッパ人が知らなかったオーストラリアとハワイへの航海、同様に北西カナダとアラスカへのそれは、航海記録と指揮統率の業績に畏敬の念を起こさせました。ブーガンヴィルの地球周航は、フランス人船長による最初のもので、彼がタヒチへの訪問で残した詳細な記録は、文化人類学の波全体に啓示を与えました。彼によって命名された太平洋の島は、第二次世界大戦中に激戦の焦点となりました。

関係カード：

#M-19 ジェームズ・ワット [JAMES WATT] : ワットは蒸気機関を発明しませんでした。蒸気機関設計に重要な改善を施しました。これらの改善（それは、エンジンの効率と多様性を非常に高めました）により、産業革命が英国で始まりました。

#M-20 教皇庁ーハノーヴァーの交渉 [PAPACY-HANOVER NEGOTIATIONS] : 教皇庁がチャールズ・スチュアートを彼の父ジェームズの後を継ぐイギリス王として認めることを控えたとき、イングランドの統治者としてハノーヴァー家（とプロテスタント）を合法化したのも同然でした。これは以前に教皇庁の支持を常に受けることができたジャコバイトに致命的な打撃を与えました。



#M-21 タウンゼンド諸法 [TOWNSHEND ACTS] : タウンゼンド諸法（財務大臣チャールズ・タウンゼンドのため）と呼ばれた、議会の一連の収益関連法案は、アメリカの植民地に関連した全ての問題について議会の権利で法律を制定支配することを主張した 1766 年の宣言法に続いて通過しました。言うまでもなく、これは特に目標とされたニューヨークではうまくいきませんでした。タウンゼンド諸法はかなり迅速

に廃止されましたが傷は残され、続く茶法がボストン茶会事件を引き起こしました。

#M-22 エドモンド・パーク [EDMUND BURKE] : イギリスで拔群の学者政治家の一人であるパークは、フランス革命の省察 [Reflections on the Revolution in France] という表題でフランス革命の痛烈な批判を書き、革命の予想外の結果と社会的資本と文化の破壊を非難しました。彼が明瞭に表現した伝統主義的な考えのため、彼はときには初の現代保守派と言われます。彼はアメリカ革命を是認しましたが、植民地に留めておくために軍隊を使うことは逆効果であると信じました。

#M-23 テュルゴー [TURGOT] : 経済学者で重農主義者（初期の経済学が定義している運動の一つ）のジャック・テュルゴーは、ルイ XVI 世の蔵相を務めました。彼の税と負債簡略化への積極的関与は王室の財政状態を大幅に改善しましたが、閑職と特権の削減は重要な延臣（女王を含む）を彼から遠ざけました。彼はアメリカの植民者に深く同情していたにもかかわらず、フランスが代わりに介入することは認められないと信じていました（ただし、フランスは奴隷制度を続ける国を支援すべきではないとも考えていました）。

#M-24 北アメリカの取引 [NORTH AMERICAN TRADE] : 北アメリカ天然資源のフランスとの取引は、国王の物質的財源だけでなく、北アメリカ産の毛皮の特異さを考えると、大きな威信も生み出しました。



#M-25 ド・コンドルセ侯爵

[MARQUIS DE CONDORCET] : 数学者で初期のゲーム理論家であるコンドルセは、政治（女性の平等と人種平等の支持を含む）についても、広範囲に書きました。彼は多くの候補者の間で権者の好みを決定するコンドルセ方法で最も有名です。それはラウンド毎に候補者数を除去するペアワイズのシークエンスを含みます。（コンドルセの方法が最も多数のグループの選択となることを示して

いる学問があります。）

#M-26 ラヴォアジエ [LAVOISIER] : アントワヌ＝ローラン・ド・ラヴォアジエは、おそらくフランスの—そして、ヨーロッパの—最も偉大な化学者で、多種多様な化学製品における鍛造進展と生物学的鍛錬を行いました。彼は物質が燃焼のような化学プロセスの結果として密度を変えないことを発見し、酸素と水素のような要素のプロパティを孤立させて記述し、化学を新たな段階に体系化しました。ただし、時代遅れで恣意的なフランスの税制が彼の運命を封印し、彼は 1794 年にギロチンに送られました。

アメリカ独立戦争：タイトルの背景 [American War of Independence : Tile Background]

イギリスの戦争タイトル

チャールズ・コーンウォリス、コーンウォリス侯爵 [Charles Cornwallis, Earl of Cornwallis] は、アメリカ独立戦争でチャールストン攻囲、ニューヨーク戦役、カロライナにおいて彼が奮戦したギルフォード・コート・ハウスの戦いを含む、アメリカの独立戦争の大きな戦役でイギリス軍を率いました。もちろん、1781年に攻囲下のヨークタウンで降伏したことが最も有名で、それはアメリカの独立を決定づけました。

ウィリアム・ハウ [William Howe] は、以前のイギリスの両国際的紛争の古参で、アメリカ独立戦争中は1777年に（サラトガの失敗の後に）辞任するまで、全イギリス軍部隊を指揮しました。彼のニューヨーク占領は首尾よく実施されましたが、広範囲な戦闘を強要する彼の慎重策は、ワシントンと大陸軍の脱出を認めました。



サー・エア・コート [Sir Eyre Coote] は、第二次マイソール戦争でイギリス軍の最初の大反撃を指揮し、戦場で驚くべき存在感を示したことで、二度目の参加を果たしました。ポルト・ノヴォにおいて、コートの混成中隊、正規兵とセポイの部隊は、ハイダー・アリーに率いられたインディアン部隊の大群と遭遇し、それらを打ち負かしました。彼はこれをハイダー・アリーとその息子ティープー・スルターン（後の第三次マイソール戦争でコーンウォリスに対することになります）に対する決定的勝利としました。

ブランドの志願兵 [Brant's Volunteers] : ジョセフ・ブランド（タイエンダネギー）に率いられたモホーク族とトーリー民兵の混成部隊は、愛国主義者の居住地を襲撃して略奪しました。モホーク族に生まれたブランドは、イギリス軍とイロコイ族の関係を改善することに重要な役割を演じました。

サー・ガイ・カールトン [Sir Guy Carleton] は、ケベックでイギリス軍部隊を指揮し、1775年にそれを大陸軍の攻撃から守りました。モントリオールは1775年後半に陥落しましたが、イギリス王室のために戦う最初のヘッセン人部隊の支援で、カールトンはケベックを保持しました。革命終了時には、彼はサー・ヘンリー・クリントンから全イギリス軍部隊の指揮を執りました。

コーンプランター [Cornplanter]、セネカ族の酋長（自身はイロコイ族同盟のメンバー）は、その身内に「白人の戦争」から遠く離れているよう要請しました。しかし、同盟がイギリス陣営につくことに決定したとき、コーンプランターはセネカ族の戦士を激しく残忍な辺境地の闘いに送りました。戦後、コーンプランターは先住領土の維持を試み、新アメリカ政府とセネカ族との間で仲裁者として行動しました。彼は若干の成功を収めました、最終的には幻滅させられました。

ジョン・スチュアート [John Stuart] は、チェロキー族や他の南部植民地先住民部族とイギリスとの同盟の立役者でした。彼はチェロキー族に愛国主義者の支援中枢を大挙して襲撃するようそそのかし、1775年にはトウエルブ・マイル・クリークでもイギリス軍と並んで闘いました。



ジョージ・ブリッジズ・ロドニー提督 [Admiral George Brydges Rodney [Admiral George Brydges Rodney]] は、七年戦争とアメリカ独立革命のいくつかの重要な艦隊行動を指揮しました。彼は有能で精力的な海軍司令官で、攻囲下のジブラルタルへ重要な支援を提供するだけでなく、襲撃と賞金獲得に大きな影響を持ちました。彼は革命中に勃発した英蘭戦争の支援に従事し、栄光と幸運の狩人としての評判を獲得しました。

ジョン・アンドレ少佐 [Major John André] は、ハウの情報参謀長でした。颯爽として知的な若い士官であるアンドレは、革命においてイギリスのスパイ活動を担当しました。彼はほとんど成功しかけたウェストポイントのイギリスへの裏切りと、続くベネディクト・アーノルドの背信を調整しました。アメリカ軍の斥候によって捕えられてスパイと確認され、ジョージ・ワシントンの命令で絞首刑になりました。

ベネディクト・アーノルド [Benedict Arnold] は、おそらくアメリカの最も悪名高い裏切り者（オールドリッチ・エイムズよりも）です。兵士であることと同様に有能な船乗りでもあったアーノルドのサラトガにおける機動は、その決定的な勝利で広い名声を与えられました。彼のケベック侵攻は早まって取り消される一方で、カナダのイギリスの支配に恐ろしい脅威をもたらしました。金に困り、戦いで負傷した彼は、戦争への自身の貢献に対する賞賛が欠けていることに憤慨しました。アーノルドは、愛国主義者たちが最後に勝つことができないと自分自身を納得させ、ウェストポイント要塞をイギリス軍に引き渡すことを企みました。彼をイギリス軍へ手引きしたジョン・アンドレの逮捕は、アーノルドの反逆罪を暴露しました、しかし、ワシントンはこの出来事の展開を信じようとせず、アーノルドがイングランドへ逃げる十分な時間を与えました。

イギリスとオランダの紛争 [Anglo-Dutch Conflict] : 第四次英蘭戦争は、アメリカ革命時にイギリスが世界中で崩壊するというオランダの日和見主義から生じました。2つの国家は、オレンジ公ウィリアムがイギリスの王位に就く前から制海権のために闘っておらず、この戦争はオランダにとって非常に悪い結末となりました（パリ条約のテーブルでいくつかの領土損失を取り戻すことはできましたが）。それにもかかわらず、重要な時期にイギリスの海軍優先と資源に対するさらなる重圧を生み出しました。

ヘッセン人 [Hessians] : ハノーヴァー選帝侯としてのジョージ王の地位は、非常に多くの一多様なドイツ領邦と選帝侯から成る、少なくとも50,000名のドイツ人部隊の従事を勝ち取りました。その大部分は単に「ヘッセン人」と呼ばれたハノーヴァー、ヘッサーカッセル、ヘッサーハーナウから来ました。



フランスの戦争タイトル

ジャン・バティスト・ド・ロシャンボー、ド・ロシャンボー伯爵 [Jean-Baptiste Donatien de Vimeur, comte de Rochambeau] は、いったんフランスが介入のために投入されると、アメリカ植民地を増援するためにやって来たフランス軍全体を指揮しました。彼は 1780 年に植民地へ到着し、いったん戦略的に安全と感じるとニューヨークでワシントンの軍と会戦するために行軍しました。ヨークタウン戦役とイギリス軍の敗北が間もなく続きました。

フランソア・ジョセフ・ポール・ド・グラス提督、ド・グラス伯爵 [Admiral François Joseph Paul de Grasse, comte de Grasse] は、メリーランドのチェサピーク湾口でイギリス軍を破ったフランス艦隊の指揮を執りました。コーンウォリスの軍は補給と脱出路を絶たれ、フランス軍とアメリカ軍は糧食と砲弾を増強しました。コーンウォリスの軍は、降伏する以外に選択の余地がありませんでした。



ジョージ・ワシントン（「アメリカのキンキンナトウス」） [George Washington ("the American Cincinnatus")] は、総司令官として大陸軍を率い、アメリカ独立革命で愛国主義者が勝利した後は、承認されたばかりの憲法の下で新共和国の初代大統領を務めました。疑いなく、アメリカで最も偉大な政治家で戦争指導者の一人でした。ワシントンの遺産と伝説は、アメリカ文化の間に最も強力な歴史的影響を残しています。



マリー・ジョゼフ・ポール・イヴ・ロシュ・ジルベール・デュ・モティエ、ラファイエット公爵 [Marie-Joseph Paul Yves Roch Gilbert du Motier, marquis de Lafayette] は、18世紀最高の名前の一つを持っていることは別としても、ワシントンと革命の忠実な崇拝者でした。非常に明晰、魅力的、士官として優秀でした。ラファイエットは、フランスが公式に介入する前に植民地に到着し、1777年のブランディワインから冬のヴァレー・フォージ、モンマスとヨークタウンの戦いまでを通して、その優秀さと人格で務めました。名誉米国市民権を授与された僅か8人の一人でした。ラファイエットは、情熱的な死刑廃止論者でもあり、それが悲惨な不首尾に終わる前に、フランス革命の初期段階で実際の役割を演じました。

ピエール・アンドレ・ド・シュフラン・ド・サン・ドロベ提督 [Admiral Pierre André de Suffren St. Tropez] は、アメリカ独立革命を包含する世界規模の英仏紛争の多くの士官たちと同様に、前の2つの戦争で相まみえていました。ただし、後に紛争でシュフランは東インド会社を支援しているイギリス軍艦隊に対する伝説的なチェスの試合で交戦することで、超一流の海軍戦略家、理論家として名声を博しました。彼とド・ビュッシー・カステルノーは、海上のド・シュフランと土地のド・ビュッシーが緊密な戦略的パートナーシップに努め、イギリス軍に対するハイダー・アリーに戦役を支援しました。

モーガンのライフル隊 [Morgan's Rifles] は、ライフルを携帯している愛国主義者軽歩兵の精鋭部隊で、その射撃の腕前と革命中の広範囲な交戦歴で有名でした。ワシントンとグリーンの方の下で、南北の戦域で闘いました。

チャールズ・ジョセフ・パティシエ、ド・ビュッシー・カステルノー公爵 [Charles Joseph Patissier, Marquis de Bussy-Castelnau] は、デュプレクスと有能な兵士の被保護者でした。アメリカ独立革命中、インド内のイギリス領土と資産奪取を任せられ、マイソールのハイダー・アリーとティーブー・スルターンと連携し、フランス軍はインド西海岸の重要な港湾マヘを占領しました。その補給線を回復し、フランスはインド内の領土を実質的に奪回する真正な機会がありましたが、東インド会社が強力にインドの防衛に関与したため、最終的に頓挫しました。

フリードリヒ・ヴィルヘルム・アウグスト・ハインリッヒ・フェルディナンド、シュトイベン男爵 [Friedrich Wilhelm August Heinrich Ferdinand, Baron von Steuben] は、大陸軍に近代の戦法、戦術、組織化を教訓するためにアメリカへ渡ったプロイセン軍の職業軍人士官でした。彼の「青本」(アメリカ合衆国軍の秩序のための規則) [Regulations for the Order and Discipline of the Troops of the United States] は、世代のためにアメリカ軍の訓練教義を体系化しました。彼はヨークタウンで1個師団を指揮し、戦後は米国民になりました。

ナサニエル・グリーン（「闘うクエーカー教徒」） [Nathanael Greene ("the Fighting Quaker")] は、イギリス軍から南アメリカの植民地を奪還するために厳しい戦役を指揮しました。彼はブランディワイン、ギルフォード・コート・ハウス、ジャーマンタウン、トレントン、ユートウ・スプリングスを含む多くの重要な戦いに従事しました。彼の忍耐力、判断力と指揮統率は広く称賛され、グリーンは愛国主義者の勝利を確保するために、どんなアメリカ軍士官にも劣らぬ活躍をしました。

イースト・リヴァー・ウィンド [East River Wind] : ニューヨークの東泊地に沿って吹く典型的な風が吹き晴らしていたかもしれない偶然の霧の下でのワシントンのニューヨークからの脱出は、ハウ將軍の強大でよく支援されたイギリス侵攻部隊の手による未熟な大陸軍を壊滅から救いました。

バンカー・ヒル [Bunker Hill] : レキシントンとコンコードの後の月、アメリカ人入植者はボストン郊外のブリーズ・ヒル（実際のバンカー・ヒルに近い）の上に防壁を築き、イギリス軍の強襲を促しました。イギリス軍は防壁を占領できましたが、それを行う中で重大な損失を受けました。これは、戦争が長引いて流血の戦いになる最初の兆しでした。



Designer's Notes デザイナーの注釈

GMT Games が私たちの *Twilight Struggle* を 2005 年に発行して以来、ジェイソンと私は一緒に別のゲームの製作を望んでいました。このゲームが超大国の世界規模の紛争についてでもあることは、偶然の一致ではありません。ただし、超大国が良く知られた *Twilight Struggle* と異なり、*Imperial Struggle* の 2 つのライバルは発展途上の近代を、どちらが支配するかを決しようとしています。これは、取るに足らない違いではありません。*Imperial Struggle* は二倍の歴史を扱い、2 人プレイヤーの国家が直接争う複数の戦争に特徴づけられ、この時代の他の列強に対する微妙に異なる扱いが要求されます。この時代と状況を正當に行うことを望むのであれば、*Imperial Struggle* が *Twilight Struggle* からほとんど借りることができないと理解するまでに長い時間はかかりませんでした。

Imperial Struggle における最も大きなデザイン上の課題は、単に以下の通りです。: 92 年間の歴史と 4 つの大きな戦争を扱う、ユーロ・ゲームとウォー・ゲームの両プレイヤーがルールを学ぶ必要なしに、軍事と政治のみならず社会と文化の競争を含む、シンプルで迅速にプレイできるゲームをいかにして作るか？ *Imperial Struggle* は、意思決定を高いレベルに保つことによって、これらの躍動の全てを結びつけます。軍事を直接支配する君主や政府をあらわすプレイヤーは、貧弱な情報と委任のレベルによって制約を受けます。プレイヤー諸氏が関与して弱点を認識できるシステムですが、最適化する能力が理に適います。*Imperial Struggle* では、戦争のために劇的な領土変更が発生しますが、一般的に戦争は束縛とを感じるべきで、敗者は条約ポイントによってあらわされた譲歩が、次の紛争で回復と復讐を可能にしたいと思います。

その代わり、鍵となる決定は、いつ、どこで、機会を掴み、力を発揮するために回転させるかです。各アクション・ラウンドで、あなたは相手側の選択肢を無効にすることに目を配りつつ、投資タイルと手札のイヴェントで可能な最高の成果を上げることが要求されます。*Imperial Struggle* の緊張は、各ターンにボード上で進行している間にその影響を最小化させる、一方の手札の悪いイヴェントの管理から来るものです。逆に言うと、緊張は、勢力の動きと妨害の可能な最高の組み合わせからもたらされます。

ときには、プレイヤーは *Imperial Struggle* の歴史変更があらわすものについて私たちに尋ねます。実際に起きた非常に多くの魅力的な冷戦イヴェントがありますが、実際にはより多くの what-if イヴェント・デッキが必要です。ターン・ゼロの拡大を除き、私たちは *Imperial Struggle* をその方向にもって行きませんでした。が、*Imperial Struggle* のイヴェント・カードは COIN ゲームで見られるそれに似ています。*Imperial Struggle* のイヴェントからアクション・ポイントを切り離した私たちの決断は、バランスが悪いカード引きの広範な影響及び大部分のイヴェントが親フランスと親イギリスのヴァージョンを可能にしたことの両方から、プレイヤー諸氏が特に楽しんでもらえることを望みます。

そして、ゲームに広がる私たちの英国好きと親仏感情が共有できることも願っています。*Imperial Struggle* は、ようやく陽の目を見たもので、ゲームを完成させて届ける動機の一つは、

これら 2 つの偉大な国家への評価と愛情でした。私たち二人の両方にとって重要だったのは、*Imperial Struggle* においてフランスとイギリスがその偉大さを完全に表現する共演者でなければならないことです。*Imperial Struggle* のディベロップメントで一つの重要な転回点は、陣営特有のメカニクスを持つ閣僚カードの創造でした。プレイテストのフィードバックは、イギリスとフランスのプレイがあまりにも類似していると感じられたことで、それは私たちが望まなかった成果でした！ 閣僚カードは私たちの解決策で、これらがバランスのとれた競争体験を創出し、二人の敵対者の異なる世界観、優先順位、野心を反映することも望みました。

全ての歴史時代は、その魅力的な個性を持ちますが、この時代を特徴づける最も著名な人々の何人かは、いつの時代でも特別な存在であると感じました。閣僚カードとイヴェント・カードは、ゲーム・プレイに彼らを登場させることを手助けし、戦争タイル上に置かれた彼ら（特に軍事数値）は戦争に歴史のめりはりを加えました。ゲームの初期ヴァージョンでは、一定の指揮官に特別な力を認め、戦争が進行できた方法により多くの非対称性を加えましたが、結局それらはプレイに不釣り合いと感じ、プレイヤー諸氏が *Imperial Struggle* を受け入れ、いま手にしているヴァージョンに馴染めば、遥かなる橋のゲームでプレイヤー諸氏がいくつかの優れたシステムやゲーム・プレイを極めるために頼んだように、いくつかのアイデアを復活させることを楽しみにしています。

何人かのプレイテスターとオブザーバーたちは、以下について尋ねました。: ナポレオンはどこにいるの？ 端的に言うと、ナポレオン時代を含めたゲームの初期ヴァージョンは、ゲーム時間をほぼ三分の一増加させ、ゲーム終盤にのみ実際にプレイに必要な更なるルールの複雑さを加えました。プレイヤー諸氏が *Imperial Struggle* から多くの価値を得るのであれば、私たちが革命とナポレオン（又は革命の後継者になり得た誰でも！）を扱う続編ゲームの拡張版を製作する誘惑には抵抗できないでしょう。

ただし、ボックス内にないことについてはもう十分です。私たちは、あなたが 18 世紀を特徴づけた乱気流とドラマに馴染みが少なければ、私たちがしたように厚紙のカウンターで何時間もの緊張、勝利、栄光を発見することを願っています。そして、あなたがすでにこの時代に馴染んでいたら、私たちが感じたことを正しく理解するでしょう。



Selected Bibliography & Ludography

John B. Owen, *The Eighteenth Century*, Rowman and Littlefield 1975.

Derek McKay & H.M. Scott, *The Rise of the Great Powers 1648-1815*, Routledge 2014.

Robert and Isabelle Tombs, *That Sweet Enemy: The British and French from the Sun King to the Present*, Knopf 2007.

Robert Markham, *Soldier Kings: The Seven Years War World-wide*, Avalanche Press 2002.

Zara Anishanslin, *Portrait of a Woman in Silk: Hidden Histories of the British Atlantic World*, Yale 2016.

Stephen Yafa, *Cotton: The Biography of a Revolutionary Fiber*, Penguin 2005.

Paul Lacroix, *France in the Eighteenth Century: Its Institutions, Customs, and Costumes*, Bickers & Son 1876 (original); ed. Suzanne Alleyn, Spyderwort Press, 2017.

Douglas Peers, *India under Colonial Rule 1700-1885*, Routledge 2013.

Emile de Bonnechese, *The History of France from The Invasion of the Franks under Clovis to the Accession of Louis Philippe*, Routledge 1856 (tr. William Robson).

Linda Frey and Marsha Frey, *The Treaties of the War of the Spanish Succession: An Historical and Critical Dictionary*, Greenwood 1995.

Julian Stafford Corbett, *England in the Seven Years War: A Study in Combined Strategy* (vol. II), 1907; ref. Pickle Partners Publishing 2011.

Credits

Game Design: Ananda Gupta & Jason Matthews

Developer: Ralan Hill

Art Director: Rodger B. MacGowan

Cover Art (game box, rules): Terry Leeds

Map, Counters, and Cards: Terry Leeds

Manuals and Player Aids: Charlie Kibler

Editing: James McPetridge, Kai Jensen, Jeff Loewenguth, Margo Marquess, Andrew Polak

Production Coordination: Tony Curtis

Executive Producers: Tony Curtis, Rodger MacGowan, Andy Lewis, Gene Billingsley & Mark Simonitch

Playtesters: Peter Card, Riku Riekkinen, Daniel Haas, Chris Cantrell, Rajan Gupta, Harold Buchanan, Pat Mulvihill, Trevor Bender, Charlie Roselius, Tim Porter, Barry Setser, Michael Lahl, Nicholas Werner, Nicolas Emmanuel Chaffron, Marco Poutré, Tom Kassel, Marc Guenette, David Stengle, Luis Soto, John Echeverria, Michael Solomon, David Amidon, Andrew Kluck, David Abecassis, Nicolas Gillon, Pierre Faucher, Hervé Godinot, Steve Cole, Ryan O'Donoghue, Joel Toppen

VASSAL module: Joel Toppen

Much Love & Special Thanks: Solveig Singleton

Decorative Page Art and Divider: FreePic (www.freepik.com)



© 2020 GMT Games LLC
P.O. Box 1308, Hanford, CA 93232
www.GMTGames.com